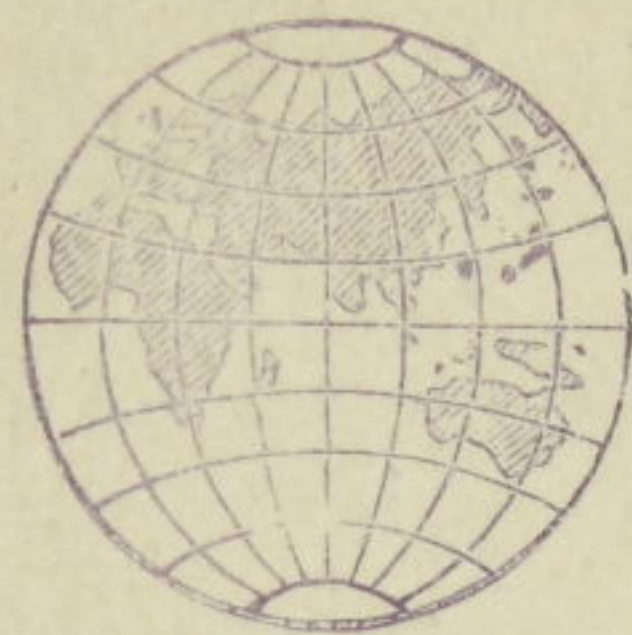


POST CARD



きかは便郵

Made in Japan.



46
3960
2
(1)



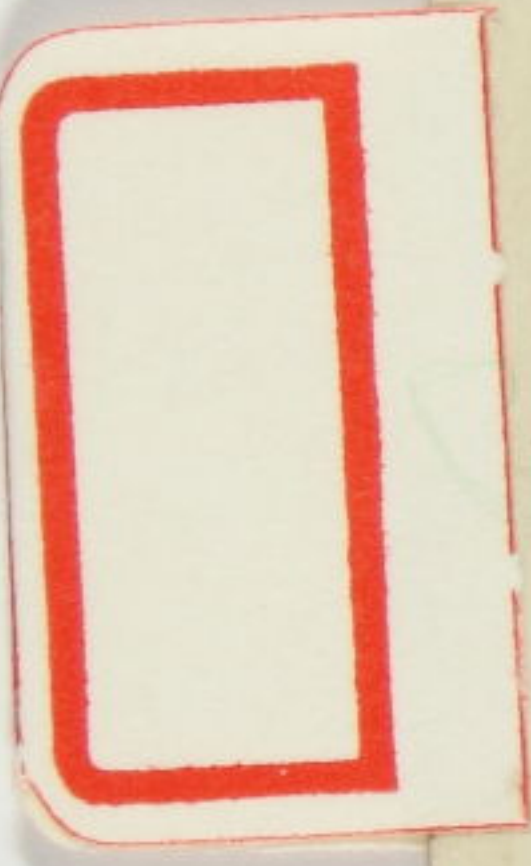
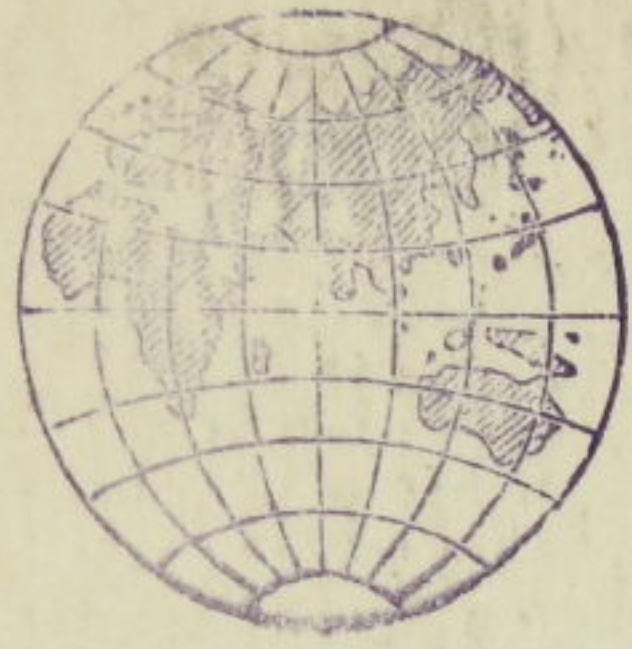
江月出
松陰相由

松の字、海月のと、ふるも墨をちかて約
二倍大とちかしてもの





きかは便郵



POSTCARD

Made in Japan.

とちよ（こ）は解りませぬ
 にはめえろの新説を術とさへ
 りは何とみても氣にいらぬの
 が所謂漢字のそのまの共通
 の特色あり心書神韻の
 後構すと、ちくにわちもそ
 ものに倭然と語を借し
 するもまた漢字のそのまの
 通の特色ありある特色
 ありが故に漢文字は彼等の
 手による（は遠く空疎あり）

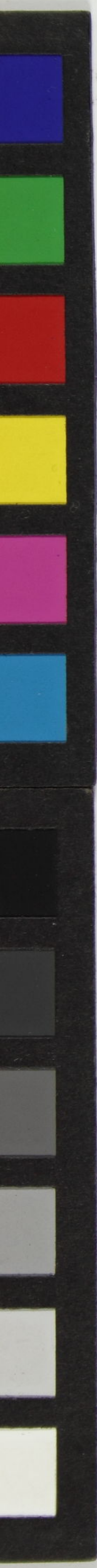


多由南岳の題了と云ふ南岳の女山豈に大雅を解

子b
3960
2
(2)

加。答。故。就。飛。特。綜。珠。璣。逆。四。十。七。相。望。不。奇。動。心。畫
神。約。勢。縱。橫。先。始。美。丈。射。北。神。心。野。分。見。愛。休。之。者。誰。也。名
這。人。言。西。遊。生。以。誰。磨。玉。禪。師。也。墨。我。心。迹。自。散。逸。後。人。在
之。之。並。辭。藝。非。之。雅。也。第。一。篇。漢。書。也。此。也。聖。貼。付。屏。障。常。鶴。列。故
物。餘。瓜。駐。也。為。取。也。選。中。世。程。旅。余。也。の。子。宿。以。産。様。消。滅。子。越。七
葉。如。及。君。孫。宗。等。結。說。可。信。神。仙。鄉。故。夢。悽。惻。支。一。臂。如。水
徑。浮。夢。初。和。洲。這。脾。肝。情。前。有。筆。花。從。今。萬。糾。也。
有。高。書。の。上。行。自。世。濟。觀。大。雅。を。逆。當。宗。乃。賦。 亨。長。 卅。二

了。も。子。の。心。也。大雅もし南岳を同時の人あるは大雅が南
岳と好まふか如く南岳も大雅を好まふか 十の大小の



POST CARD



きかは便郵

Made in Japan.

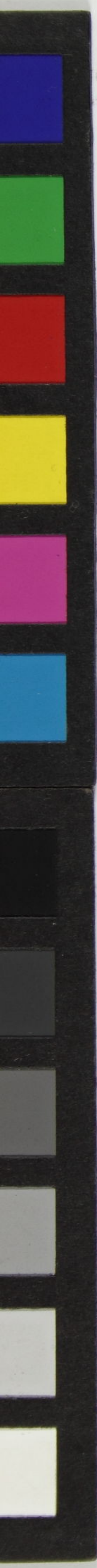


卯ハ朱文
池無名印
白文ハ
九雲山人
コノ印大

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十



46
3960
2
(3)





郵便局
市島郵便
郵便局

ARTEROSIS
WADA SEIBIDO CO. IN BEPPU
大分縣別府町
濱野海山
立花屋

郵便局
市島郵便
郵便局

46
3960
2
(4)

十一月廿一日
上野
君の手紙を拝見し
はるばるお返事を
して下さることに
感謝いたします
越後に関しまして
は、お返事をいた
すことが出来ませ
ないかと存じます
ごめんなさいませ
ん。





きかは便郵



UNION POSTALE UNIVERSELLE
CARTE POSTALE

和
引
紙
紙

十一月廿二日

市馬津
坂

大分市
牛久保



大分市中とともあはれは
書一冊と得たる子土人
の比を佛群を等閑
視すの証拠とあすべし
中へ行りて大分市外上野
田モトマチと称すところの
一軒を認め最近に
は左の良の工場の掃き
一後） 鉄け 柱
と田心は 了、と、ろ 敷
と心は 了、と、ろ 敷
と心は 了、と、ろ 敷
と心は 了、と、ろ 敷

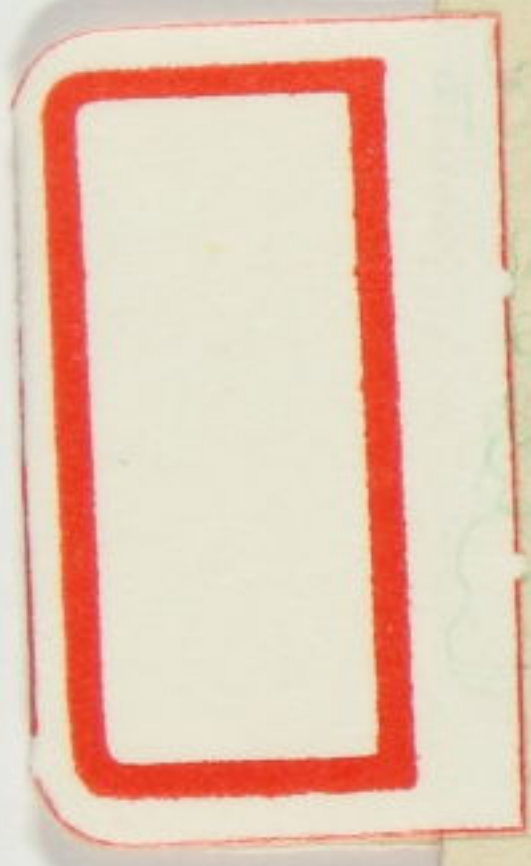
4b
3960
2
(5)



Handwritten text on a small rectangular object to the left of the figure.

Handwritten Japanese text in cursive surrounding the figure. The text is arranged in several columns, some to the left and some to the right of the figure. The characters are dense and difficult to read due to the cursive style and the dark background.





きかは便郵

POST CARD

物
 市島海士
 子あ
 子あ
 (x)

行発トマヤ。作佳美



子b
 3960
 2
 (b)

大分上野の石佛をみるや

人のちりておすかしまは

ちりてあたりみゆけの胸

ひいやりし石の佛のころも

ついそほそやま草つね

大分よりの付にもとらむとす

とよまの字にて朝のちもの

あまかあまにあとろそ

山ひく、すまかにちりて

草をほり。まの海

十一 〆 廿二 〆 程 物道人





郵便便はかき

東京市牛久保区
中野五軒町
東五軒町
本島謙三様

土曜廿四日

POST CARD
物



たれもあま明かに十一面觀
音とあまぶつ子の一魁あり、
共首は新作とあま下せ
しものを侍に侍させし童
子の路上に載せられたる不
命明玉もあり、世法師の
右側に金剛力士と云ふ
べしもの首のあまのあま
もの一魁あり、其他全形
は略々備はれしもの
手足あましく膝腰とて
識りたるとし像數あり
朋はあまから首のあ
ま菩薩形數魁あり



一曰以
 一曰以
 大いに
 よろこぶ
 切てを
 口一と
 リたし
 たる大
 合市
 字上野
 元田
 の石伊
 集ま
 は三十
 餘躬
 を教み
 とは
 其の
 形勢の

精	足	龍	解	用	旺	務	歐	所	蘇	良	主
處	業	候	彌	括	農	負	王	僕	根	青	龍
體	所	多	麻	氏	野	精	斬	系	野	養	商
徳	綱	疏	綱	親	解	戸	刑	生	綱	岐	船

此の字を以て
 身作のいも

身作のいも
 是の字
 念に
 せらる
 もの
 例の
 草師
 コシ
 草師
 本
 大の如
 子
 と
 の
 考
 其の
 鼻
 其の
 形勢

(寫字華精繪工) 物什院倉正良奈

(△)
 2
 096E
 94





郵便はかき



POST CARD

手紙

十一月廿四日

東京市
練馬区市牛込
子々野所
市島海士
宛

ここに牛御はお厚の
よまごい反ちつし
ふ 着るは赤さき
野明に輝く
ものはさし像に
起すやうにも
も 下さか
ぬしは厨子
今たる少強形
しく群作の左
されあま
多く懸あ
鑑別いたし



76 3960 2 (8)

たゞ其処にあるが如くして定む其位置も超しむ
みらえと自身の到るまでありぬ^{上座}、_院予を待ちたる

奈良正倉院什物



手のみありて多聞天あることをあはれしむるもの一躯、傳説に
よて二珠ありてその一躯、かくみくもりく、^者あり





郵便はかき



(下)

POST CARD

大日本

市島山
鎌倉
村

牛込
市

一、あるところからみれば、白粉
の土はあつたとき、はたきの上
らへし、しらべと有し、
凡そ此地方の石佛は大方
市外一帯、牛田町附近の一
群、白粉の一帯、及び
立石町の北方、高田町の
南方、一帯と、以上の田
グループに分つ、ものにして
傳説するは、立石高田附近の
もの、他仁聞に關係し、
白粉の傳説、その、其、
白粉の傳説に關係する、
この、その、その、



46
3960
2
(9)

女子とて三十五年の共進会當時につくられたる大分

母の遺物としてこの冊をみるに 此群像のことは

日記に記し 三十五年

空のゆき 園の

調書

とて

山氏

とて

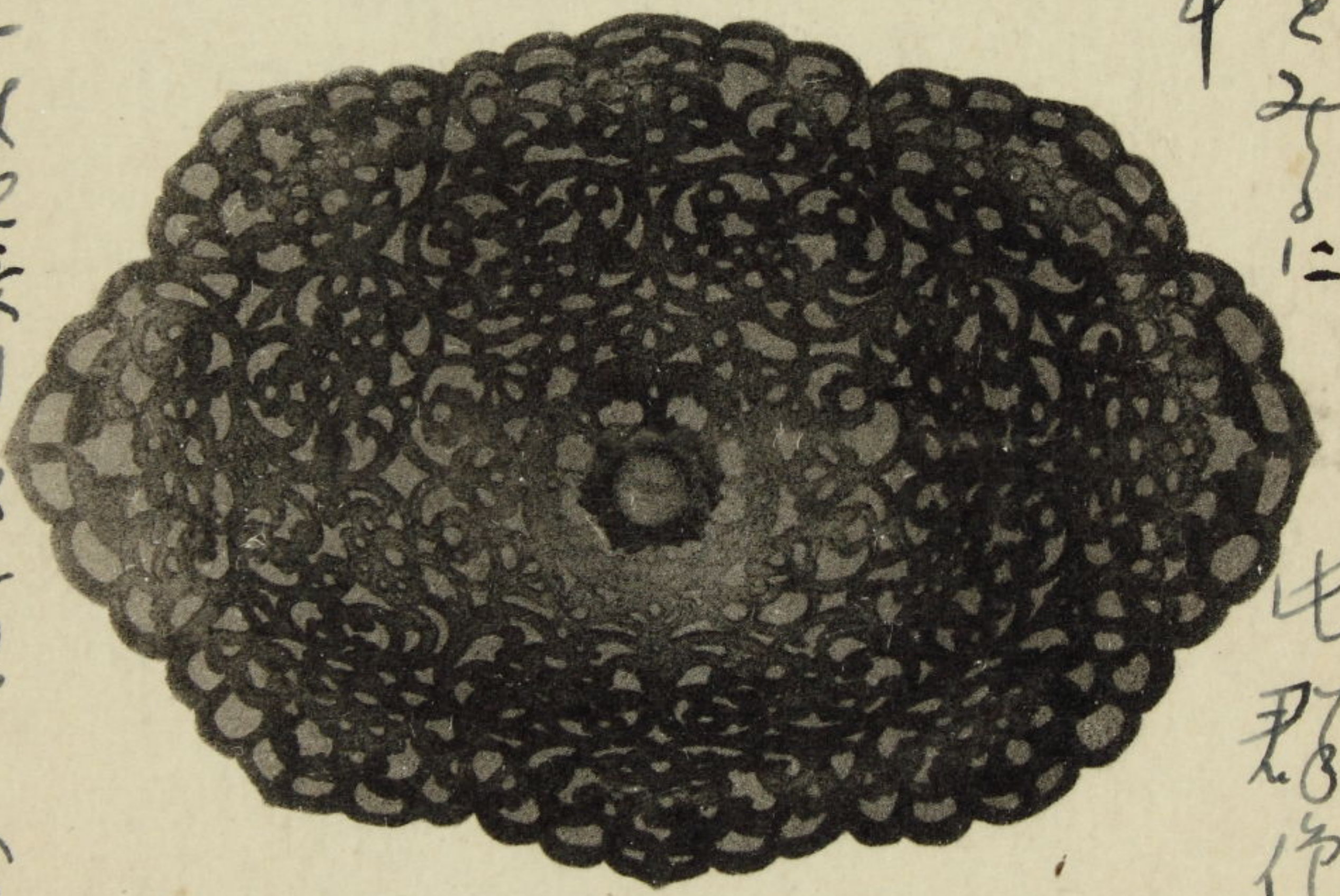
勤

抄

揚

とて

一云と云然らば此一群のものは比較的以前より人のしものあるが
如くおれども同書内には白折の満月寺につきは一書も言及



物 14 段 有 正



郵便便かき

POST CARD

十日廿四

市島簿吉友

あつ子市
牛込女五軒町

書神具と

此の折返一昨の思

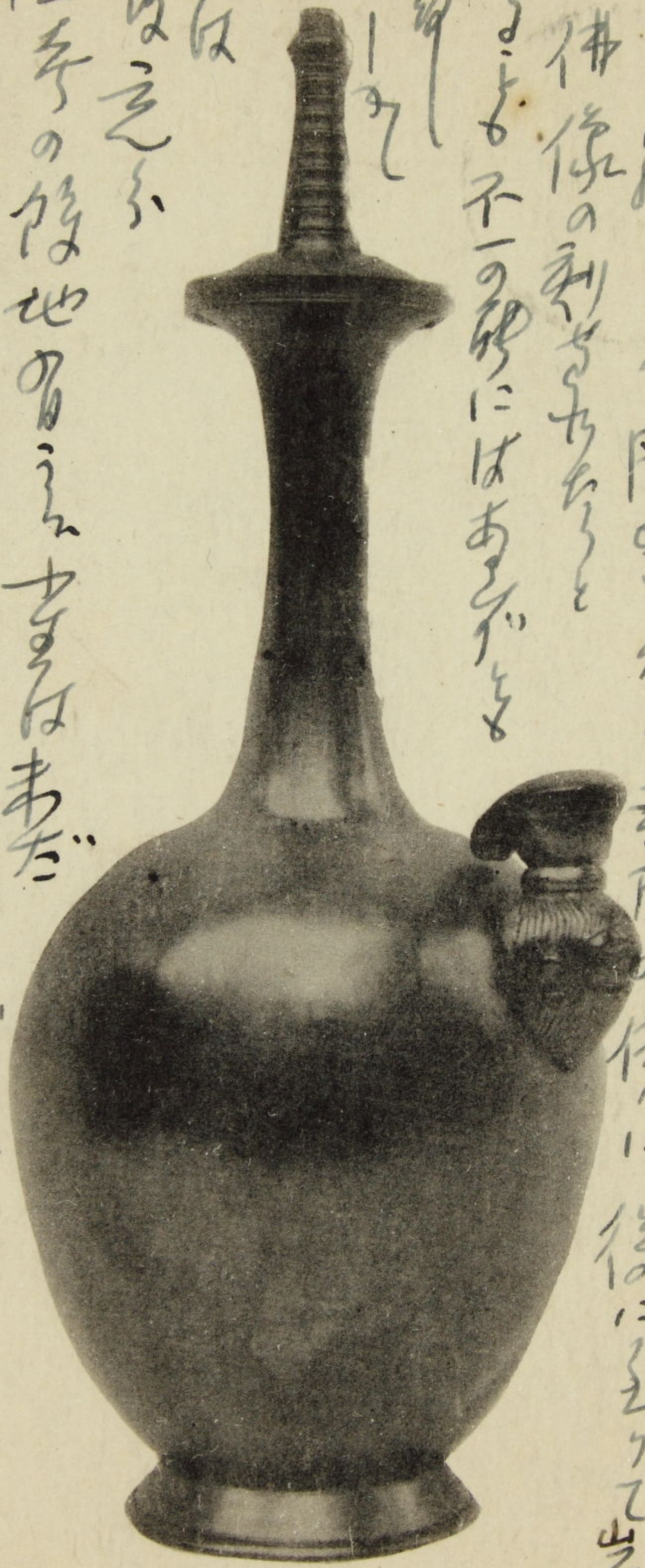
はすのり
類を中世の大元教本に
るるると一類七中も
其の語一とを其始と上
の酒とみ終りの客に對し
工多は毎り井浦の二升

る程多りの少あらは
まは強と形も成さき
とて飲字の角系に



76
3960
2
(10)

此等佛像の審美様式は日羅の時代より室に後代の
よりかは彼其の白徳の時代の作を以て大に希少なと存し
とも日羅に由りて開のたより寺院の傍に後に毛りて岩壁
に佛像の刻がたつと
みよとも不の物にはあるがと
有し
し
し



西今院の物

禮奉の役地の旨いふさまはあた
西院中の一器と踏まゝしたのみあやは未だ
多く海すの地を格ありとを信し
これに於ても工多のつたる物にがきは
鮮明なるありと今にこの思ひが
實物は甚だせに甘くと



郵便はかき

市島護子

東京市牛込区
東五軒町



十一月廿五日

2(11)

POST CARD
郵便

おはす市杵島娘(二首)
巖島をすくく(壁の
繪はあまつ乙女の裳の
すそこのちぎれ)にも
ものふりにりり
かづ繪の面△ある寺の
佛のまよの、尚ほ吾をみ
△ほろびゆくちを後の
この寺にいつれの佛
~~い~~あつたすそい
(以上信隆寺迹懐△い
り湯のあふる、よかに
もろ足もゆたけくのいて
神の代をおとる△

本朝陽子ぬるあつて、
 おみせざし、もよとに、
 得たり奈良正倉院御物、
 大の良のり、
 鳥の子のあり、
 符(王権神代卷)のあり、
 本朝陽子ぬるあつて、
 おみせざし、もよとに、
 得たり奈良正倉院御物、
 大の良のり、
 鳥の子のあり、
 符(王権神代卷)のあり、



そのま、
 てものが、
 大の良のり、
 鳥の子のあり、
 符(王権神代卷)のあり、



郵便はかき

市馬護主

様

東京女子市牛込
区二軒町

十一月廿五日

(B)

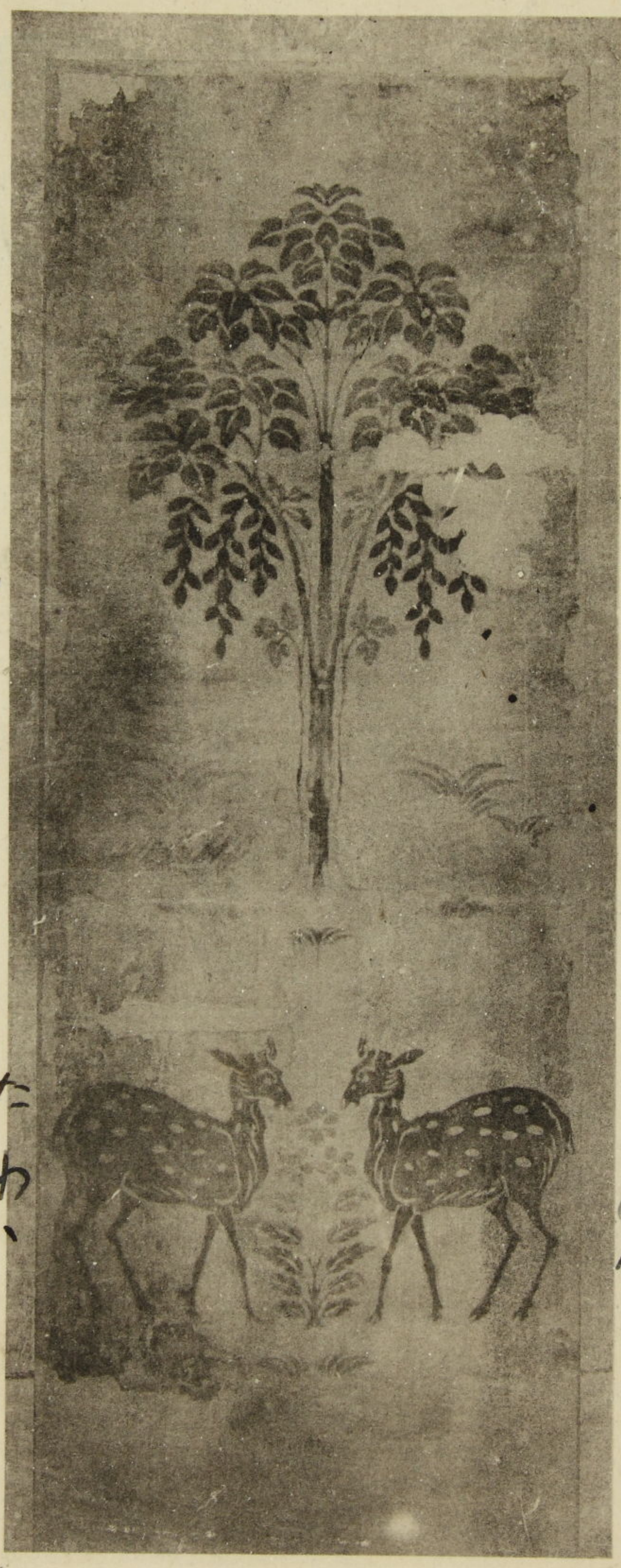
2(12)

POST CARD

手紙

△ 湯の湯の本の問題に
 ついて、火の敷も、
 終子に、
 が、
 湯の湯の、
 は、
 最後、
 別、
 の、
 の、
 あり、

△中のやどの暗さあまりによまゝみみの柳陰ほそりみは
 とげの眉（江上）に目まじり香とさくらにみ（江藤精華臨寫）やまとのちに
 立つ雪は君がいぶさのさきうあつらひ（戯）にたの良の工
奈良正倉院御物



とる花華にゆきさる△橋のこぬれとたを、に吹く風の
 やしときもあぐいけいあはほ申（宮のそ）△宿の湯の煙
 の木の間にいぢり火のぬちーらぢかみぢるこのころ（宮のそ）





きかば便郵



東二馬市牛込

ちのまの町

市馬市牛込

古

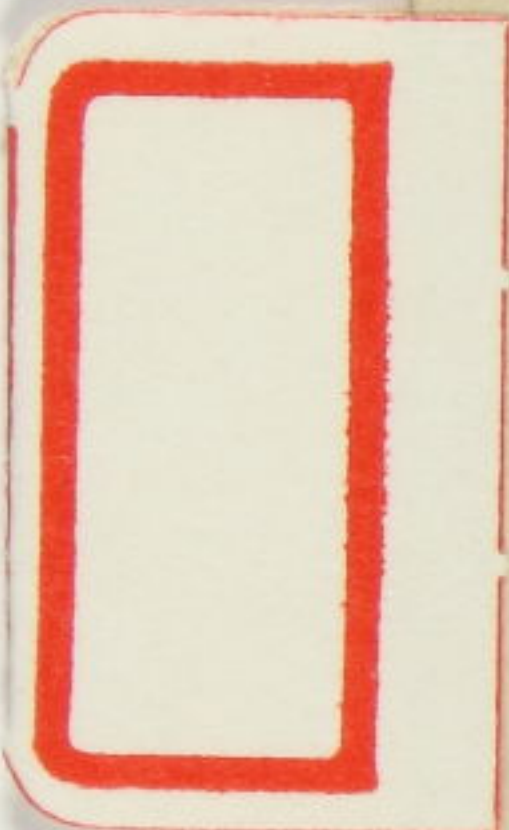
別紙

一箱

UNION POSTALE UNIVERSELLE.
POSTALE

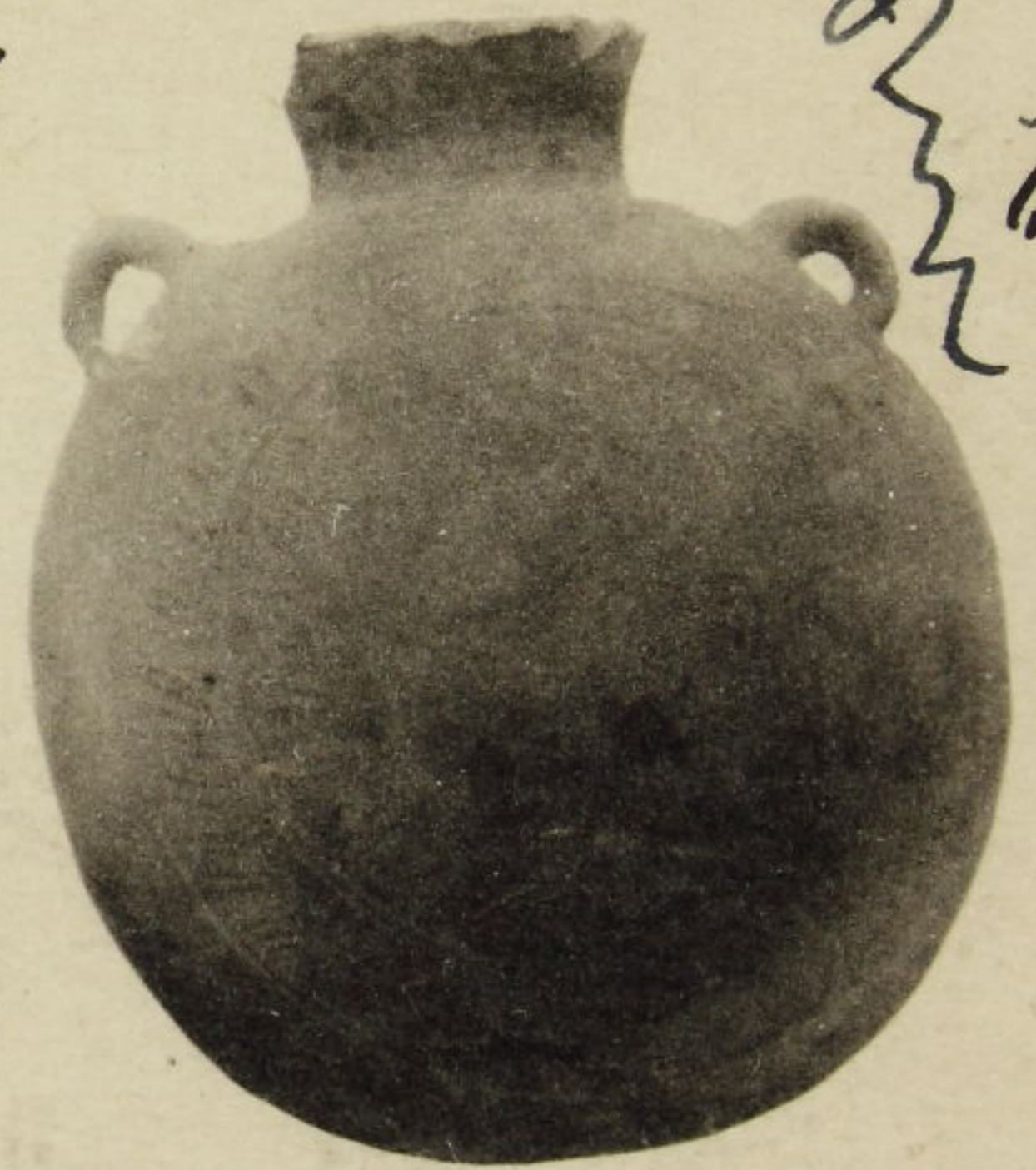
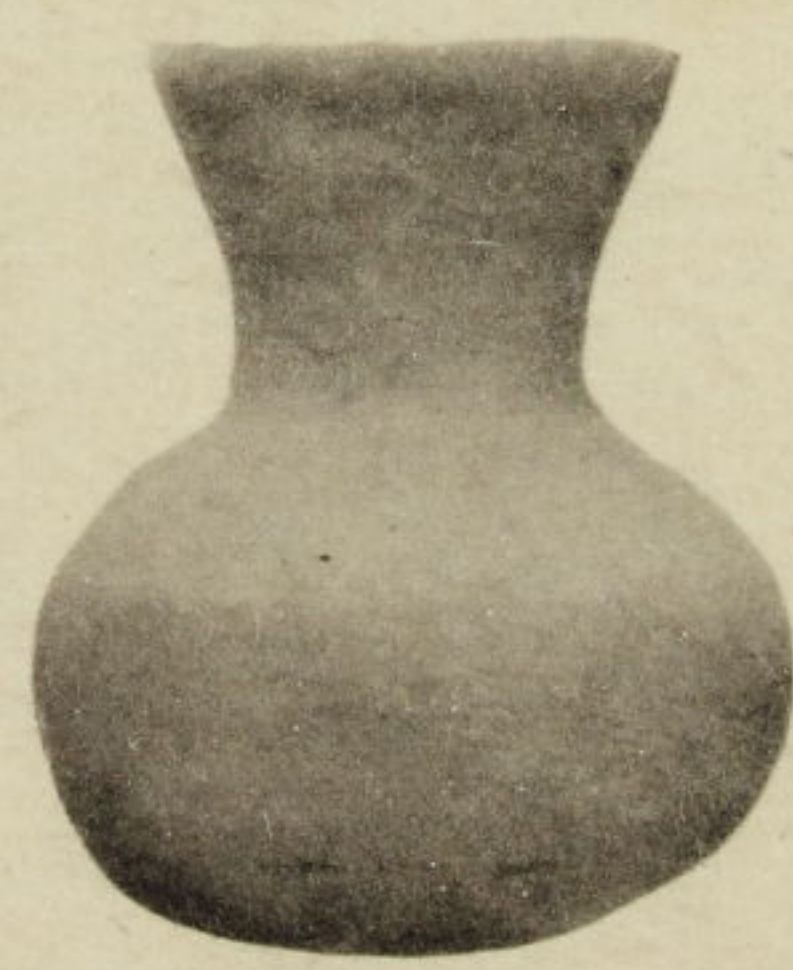
GARTELLI

五ヶ年氏名馬市
白梅田に在るは看
病に之れあれたる
惜お、人に之、今少く
何れあ、た、もの
赤草相と、あ、を
前、と、病
に、大、知、あ、と、大、段、に
乙、人、の、一、か、ら、は、も、に
名、中、に、は、有、り、と、



76 3960 2 (13)

十一月廿三日
 十一日廿三日
 十一日廿三日

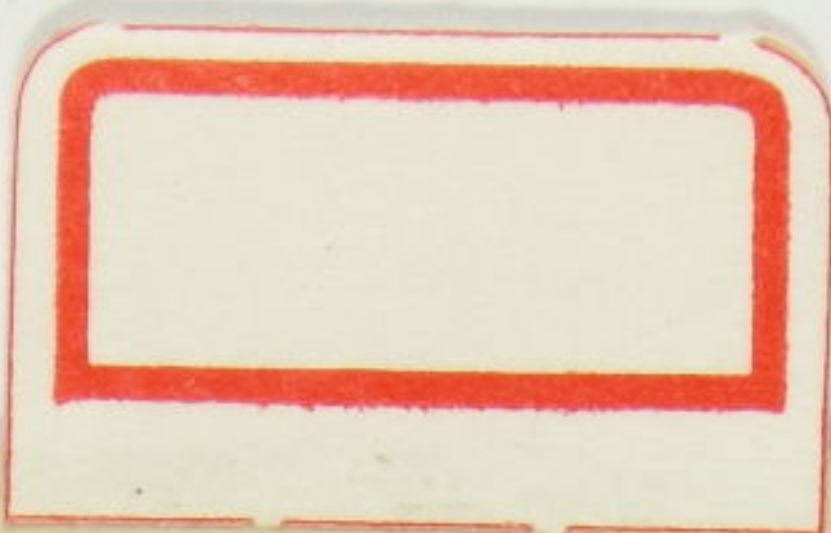


ゆきまきやば
 けいせいの
 まげと
 みたむけ
 二つ三つめ
 ろちろち
 鬼の岩
 屋とを
 一りか
 本日は地獄めぐりまじり

いはね
 ついに
 鬼の
 酔ふ
 かし
 十と
 りはあ
 造りあ
 けも
 山と
 とみ
 か
 十一日

豊後川鬼窟の石窟 二千餘年前の遺物其二





郵便はかき

市島護生

東下子市牛
ある所

十一月廿二日

POST CARD

上

新

中二問保サ一問高サ一問
 位の石密中に五尊を刻
 したるものにて弘仁以前の
 作ありしと思はれ其状白
 雄大渾厚なり其ありよふか
 さまものあり物其傍
 をさるるあたりに其傍
 の最右端は降三世明王の
 了く其傍に如き輪飾
 ちの六臂あり
 即ち中央は大方如きあり
 其傍は明かに大威
 徳明王にして其傍即ち
 左端は金剛夜叉あり
 りかその内には夜叉あり

76 3960 2 (14)

本日は大分中子村に到りて郷土志新と借道せんとし
大分も何れ地すといふあてぬるも表裏東の山をとも
地中の御物 奈良正倉院御物 地中寺おりの無為 (工部局蔵書) 今更には
早中かましく講釈とせむら 再ひ上野元



町あり。まの師匠は近に到りて考らふとつげたる。後二甲の
成りてと歩くと東植田村大字夏智の岡とつとみとこ
の石佛像をともみ所、岩壁に横二尺五寸タテ二尺
位の合巻をつら其の中に三尊を刻みたるもの一個
あり。そのまじくふに足らざるものあり。他の一個所は





郵便はかき

市島海士

左の行所
左の市牛

POST CARD

大島縣
左の花巻

月廿八日

一、市島海士雄健翁
はあつらひ
此に反を記述に身たれた
る穴居の遺跡あり又埋
葬のなるに身たると思は
る、横穴あり古久しき等
の、穴にまゝを掘り出し
て、金匱に作りたるは
あり、あつらひの
東植田村高松、丘
の、か、に、植田村高松
と、し、て、に、に、に、に、
は、た、た、た、た、た、た、
は、た、た、た、た、た、た、



此の如き如き編の如きは其の形白く是よりなり
 のものにありやうやう有い大和の室生寺に一軀あり
 奈良正倉院御物
 河内の飲心寺に一軀あり
 (工藤精華謹寫)



了もそと強て開し非せしといふるまのよにすうそもの
 其外には少くも聞行て有すよと聞かものにはん
 此石佛群に於て高珍をすべしは其墨土書と朱と
 成り彩色の強と大部は遺憾なく殊やよとにせ

千六
 三九六〇
 二
 (15)





郵便はかき



POST CARD

箱

十一月廿九日

平島護士
様

東京市牛久
保野町

調査にははるかにあつたか
 りらに上野は古國府に
 隣接し 田舎寺と称
 する寺 (一名古金寺) に
 ありしよしよやは
 此所に此郡像の存す
 以無類あるかといふ
 此地を思ふたゞいふ
 信知しとるは此所
 近き以宝戒寺とて子
 言ふ寺あり古刹と稱し
 大い如東の村のありあり
 れもははるかにあつたか
 ものにあり



4b
3960
2
(16)

此の木のあゆみ印利物に甚お師如まなる十二神将
と何あはるる何を見ても十二神将をいかに
にや頭髪を結ひ方をみる少ありさうあると何程か
一ニのものを除けばみよ其は陸形あり此程か



いかに
石の
たか
そ

あや又最近大に願は之大に調書し
あは伊程の調書は存せしこと近
奈良正倉院御物
上野の石佛群の如きは





~~群石白の
下
の~~

山王
の
社

コノ丘
右側
石佛
あり

コノ下
白さ
る
石佛

山王の社
の
石佛
あり

(行發館真寫川十五)

景全佛石寺月滿

田深町柀白



郵便はかき



POST CARD

十一月廿一日
別紙付
花

東二子市牛込
東二子市
相

近景

東二子市牛込の
はいつれ一詩一は
正しくいふ
又此技術をも
事ご世の至に有る
ら秘を承へては
あはぬやうに有
白粉の役場のま
満月寺附近に
碑を築きし
校碑は古の
力を入せし
研をせし



千 3960 2 (18)

みにもち臼杵のものるが其他大分縣の既見のもの佛
は物殊の昔傳値ありを有し長考傳説はを
團め何ある地すにも何等の形式にのりたるもの
よるが在所の炭林と長考にのりたるは一舟のりたる



本ら臼杵の名佛を踏まへたるはまるとして坪内
博士に口ましたる松平と撥回するはあけせり
弘法奈豆山會尊觀物の密教の顯著に度来り仁徳天皇御代に
ありしとをのりたるものとすべし此のちあるもの





きかは便郵



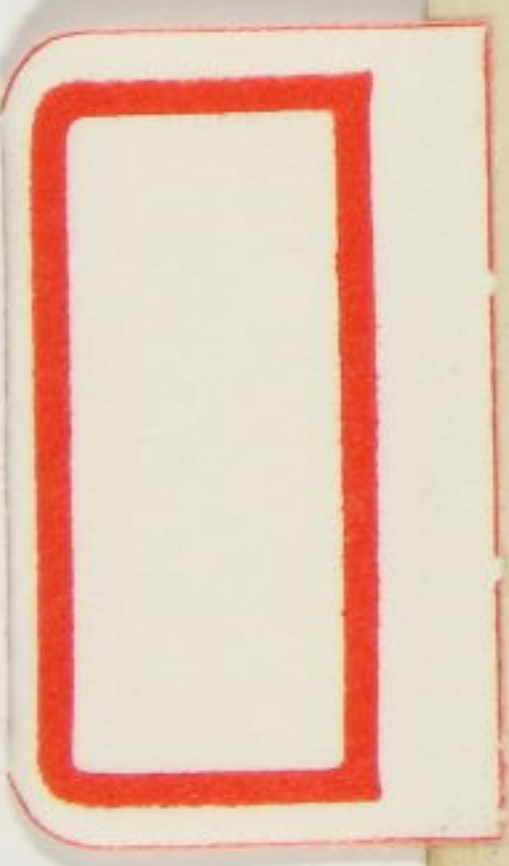
POST CARD
下

別紙は之を化也別
在之

十一月廿九

石見漢土の
板
あつた
あつた

ど
文をを彫刻し
あちの生い傳ふ天下に
ゆるぎのありしとる
一は此板碑は何等の
の文をよむと暗かとはとに
かくらひ少箇にありとみ
よかかくにるゝ
白折所●字門前と
うみとららに五作の伊
傳ありし
あつた



物色竹ののにさか 稀に丸か字を并せさるゆたよいは
 あやもも今成夢にまあるこ二石に相遇も奇縁と
 有し 投碑と石佛とは時代に於て距離あり縁と
 接に関係はあささと明ああも大分縣の石佛ほど

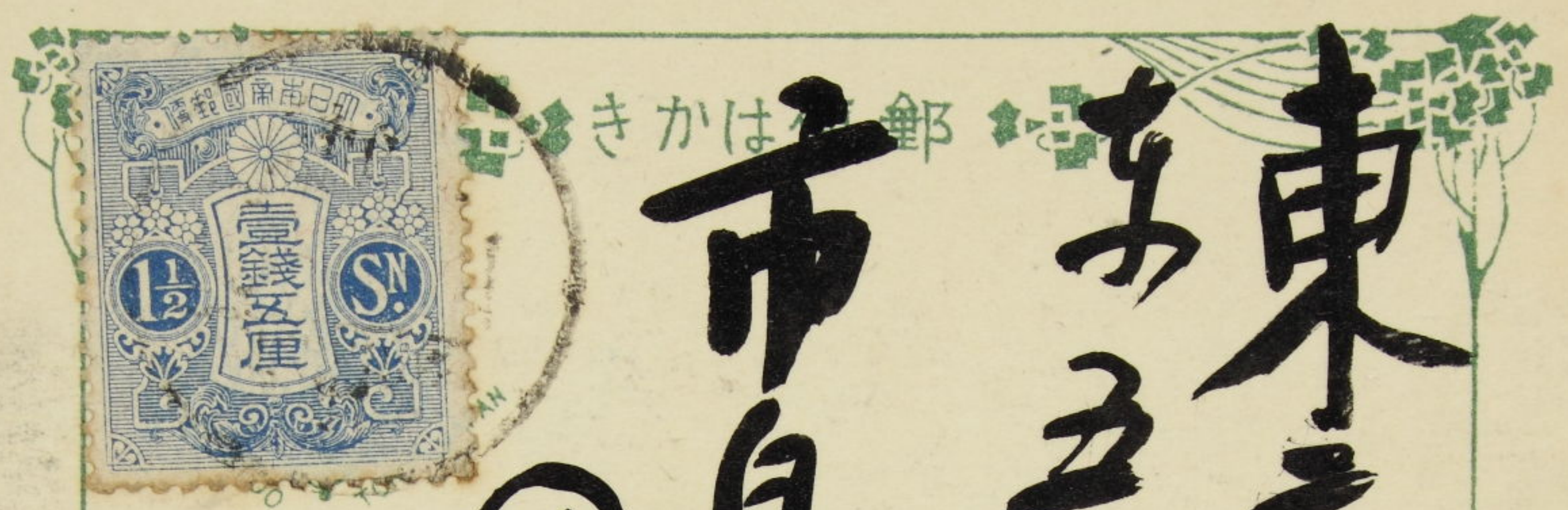


もの、一つにさか、一は、
 上階すすぶしをも中傳しめく
 概していは投碑は門を文とに武
 別録(工藤精華氏蔵)

奈良正倉院御物

千6
 3960
 2
 (19)





郵便局 かしき

東京市生込

五軒所

市島謙吉

又

① 十二月

別付は 新聞

CARTE POSTALE



此地方に三日月の里
 軒をとりておよそ
 地を高くするに
 く又たおもしろく
 段に上り下りする
 ありて居ぬが日向の
 日向たるところあり
 くかつて面白く
 九州を一廻りして再
 びの付にゆき来る
 た可き事と存す
 力内にえちが
 といふの事
 いかとなく





あつたての平書

なる軒所

きかじは

市島漢文

② 五月一日



ARTE POSTALE
WADA SEIBIDO CO IN BEPPU

直接問接といひかき
すしていふ事柄あるは
そのの事として主張する
ろにのみ之を見の玩具
たりしは前には大人の縁
起りのたりしことありと
思ふを所し
ことに縁起といふも主として
子供の遊具と交る事とに
関係する縁起物たりし
が故に家に子供の物に
たりと用ひる事ありし
かくの如く解して初め



清くおぬる
 人吉 日たきえ
 の 雑子車
 大陽の
 鯛車
 柳川の
 雑車
 子よ
 湯
 望に供
 た
 たり
 式の縁
 起もの
 轉作
 たる
 自
 有
 日向の
 車
 有
 有



別府温泉場全見

(12)
 2
 3960
 46





東三子ニカ牛込

五新所

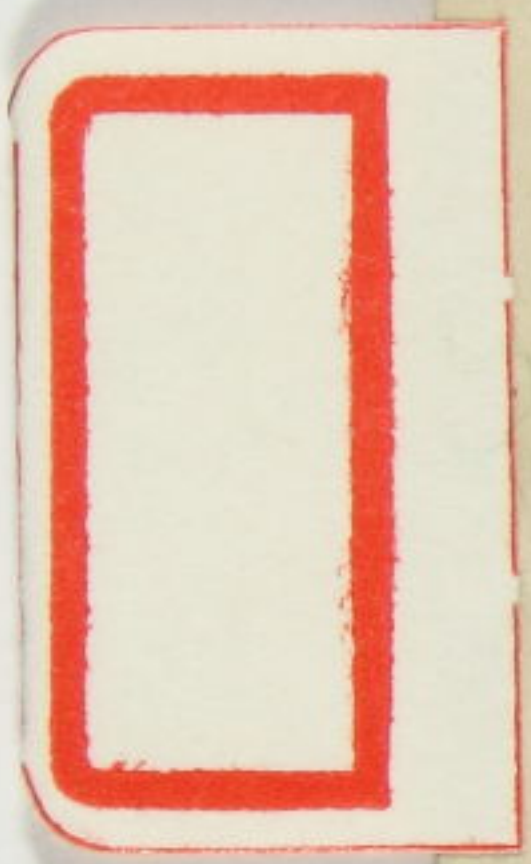
市島謙吉様

③ 十二月



ARTE POSTALE
WADA SEIBIDO CO IN BEPPU

は表面ハ幡柄にて
いし其縁起ものたる
鳩や狐や鶴のや與馬のや
鯛やみよの孳殖の之4
おににあらゆるは生殖
器のこのもの、形似の少く
修飾せられたるものに過
りず而してハ幡柄
このものハ鷹神事たる
不とハ其ハ其ハ其ハ其ハ
なせやん神社たるか好く
はハハハハハハハハハハ



かくちんといはらうの教めすも
案にあふ戯の

為めの玩具

の物をと

主は

くも

いん

は

は



後世に

ゆらゆらたる

ものにて

その好みに

は断

して

は

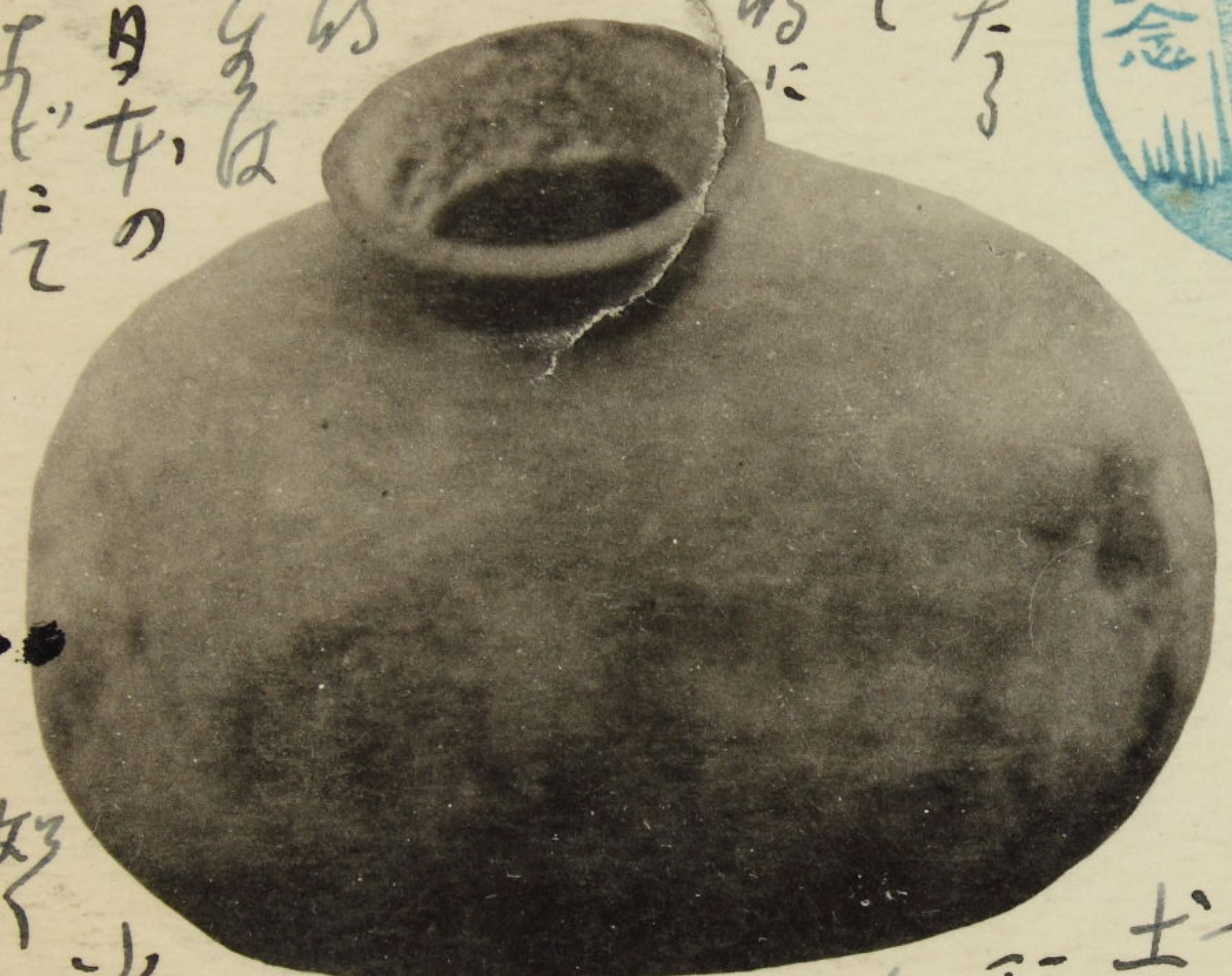
いふ

ありと

有る

山

の



に

は

供

た

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

豊後 川 鬼 石 窟

二千 有 年 前 遺 物

其 一 今 日 之 供 養 之 具 也 山 之 頂 上 也



東京市牛込

五右衛門町

市島津屋敷

十一月一日

大分県

立花屋

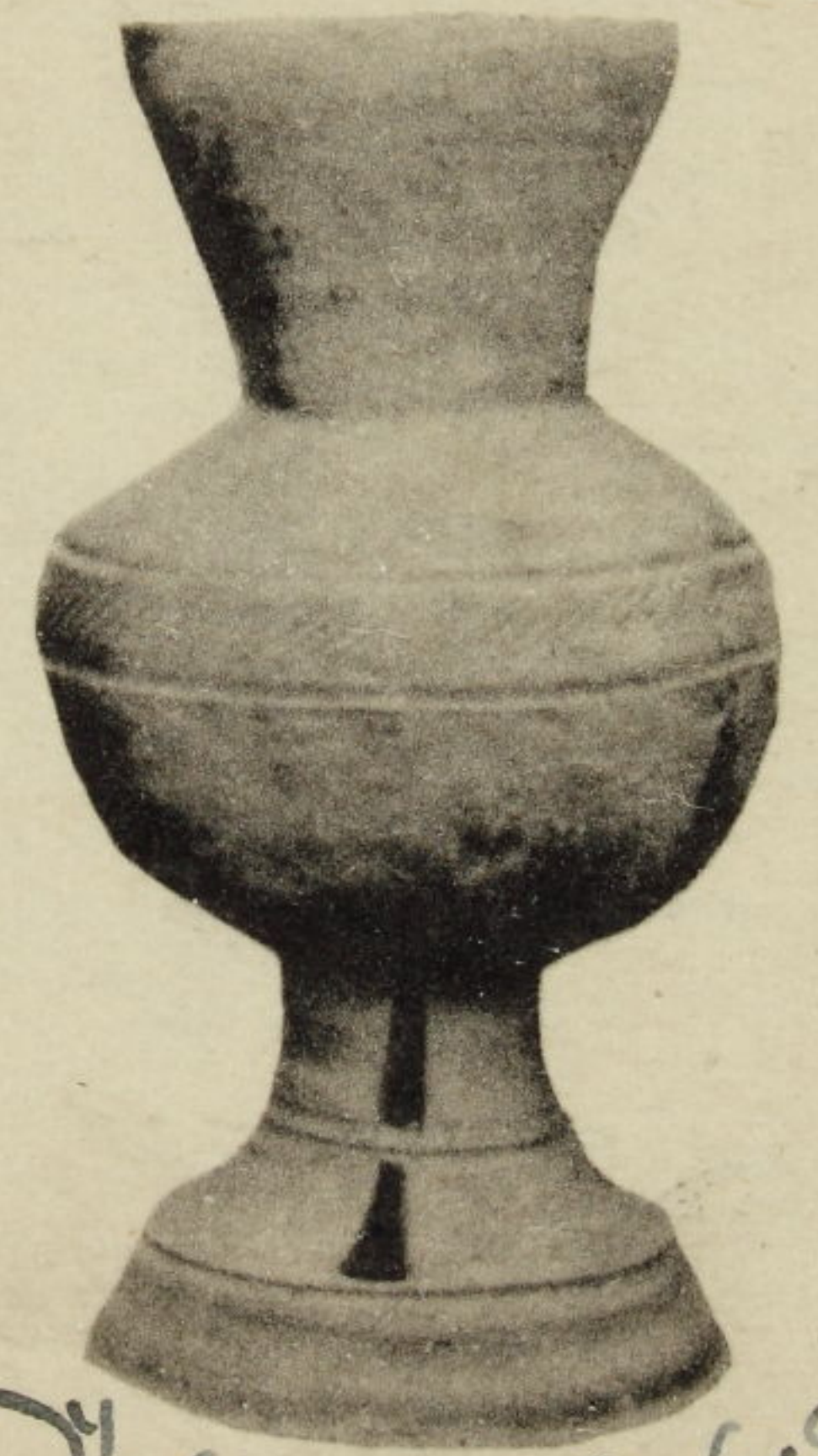
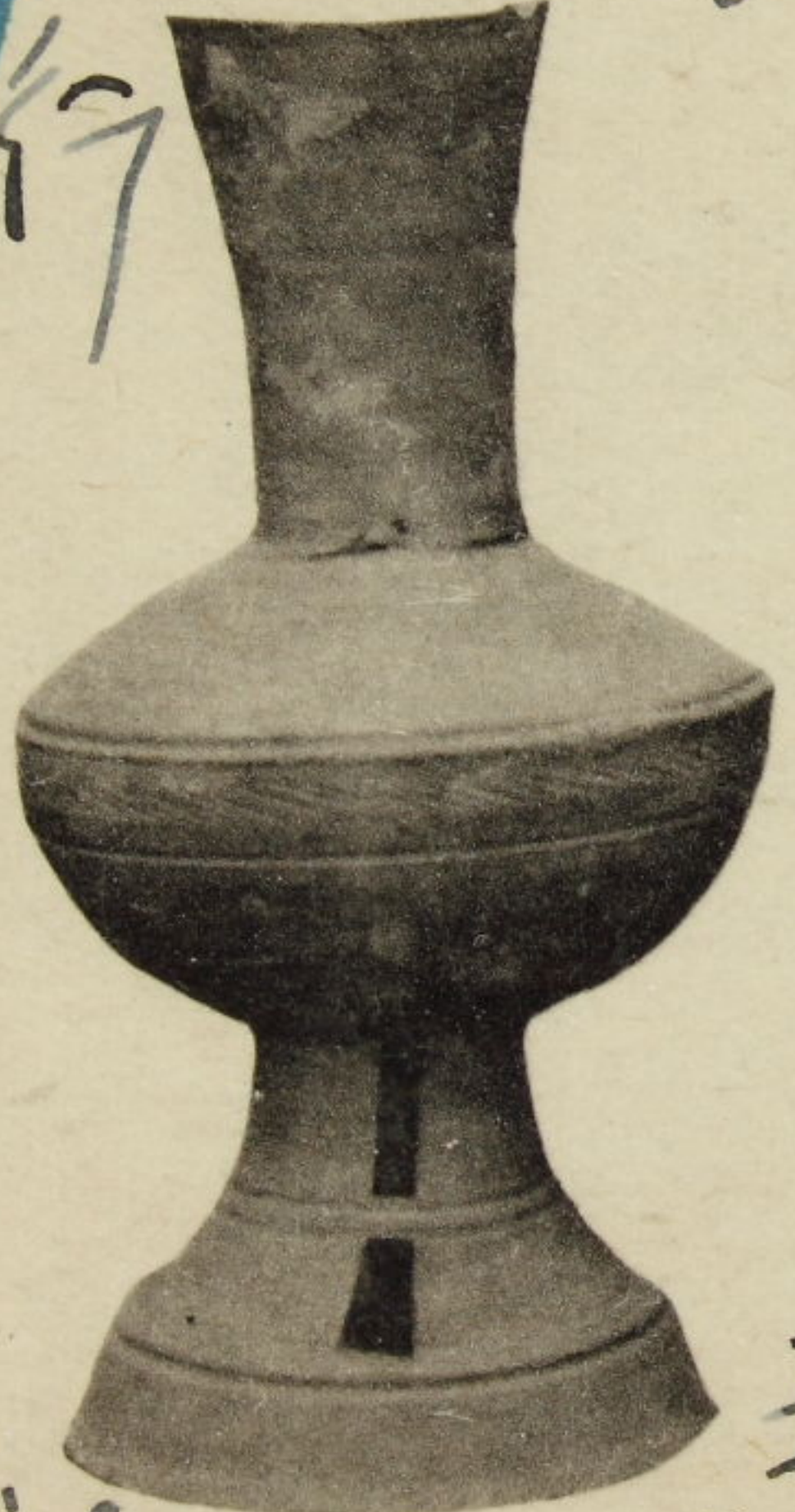


UNION POSTALE INTERNATIONALE

善通のせにロイド製のもの
の稀に姫路製のもの
とみるものにてい
偶然金物製のもの
を
大に幸う里に有
ハ物き
九州の
たもの
ハ物
ハ物
ハ物



はさこあさあさくに玩具の
 本原を觀し
 見るの
 ありて
 は今由
 の俗あそ
 好機とて
 多分屯
 くらいつ
 ありて
 習力
 ありて
 材料と
 得た
 予ここ
 り白旅行
 とあ
 とも
 のも
 のに
 中
 記
 念
 遊
 覧
 鬼
 の
 窟



川府
 は邊
 の
 豊富
 ありて
 は天
 下に
 冠
 たり
 玩具の
 も
 一と
 動
 あり
 ば
 福
 圓
 の
 博
 の
 形
 と

三其 物遺の前年餘有千二 窟石の鬼川龜後

(24)
 2
 096E
 94





郵便はかき

市島謙吉
様

東二早市牛込
車五軒町

(A) 十一月二日

POST CARD

別紙、存貯
宛に

ことわざのつとめと多量に
 後悔もあつたが、俗句は
 俗句で我儘で押し通
 し、勢もいささか之を
 事にして通つて、
 書道の我儘は言ひ
 道断に、いふ家利
 論も、論も、そのは
 づかひ、と、うらなは我儘
 に、何と、いふのと
 中々、いふのと
 かに専門を問ふ人



昨々は長き玩具論にありにちかは思ふ事ありてに
 いかとあやも却て古遺品を扱ふに像と云ふもの
 之れをいふは一理
 厚くこぬかゆか
 このため多枝にみあうて
 畢集
 何一
 も
 厚く
 手に
 フカガ
 仕舞子にはあやも
 自分も幾平のあやも
 いかとあやもつて



口々のあやも
 間とあやも果
 いかとあやも天啓の
 有しと云ふは

2(25)

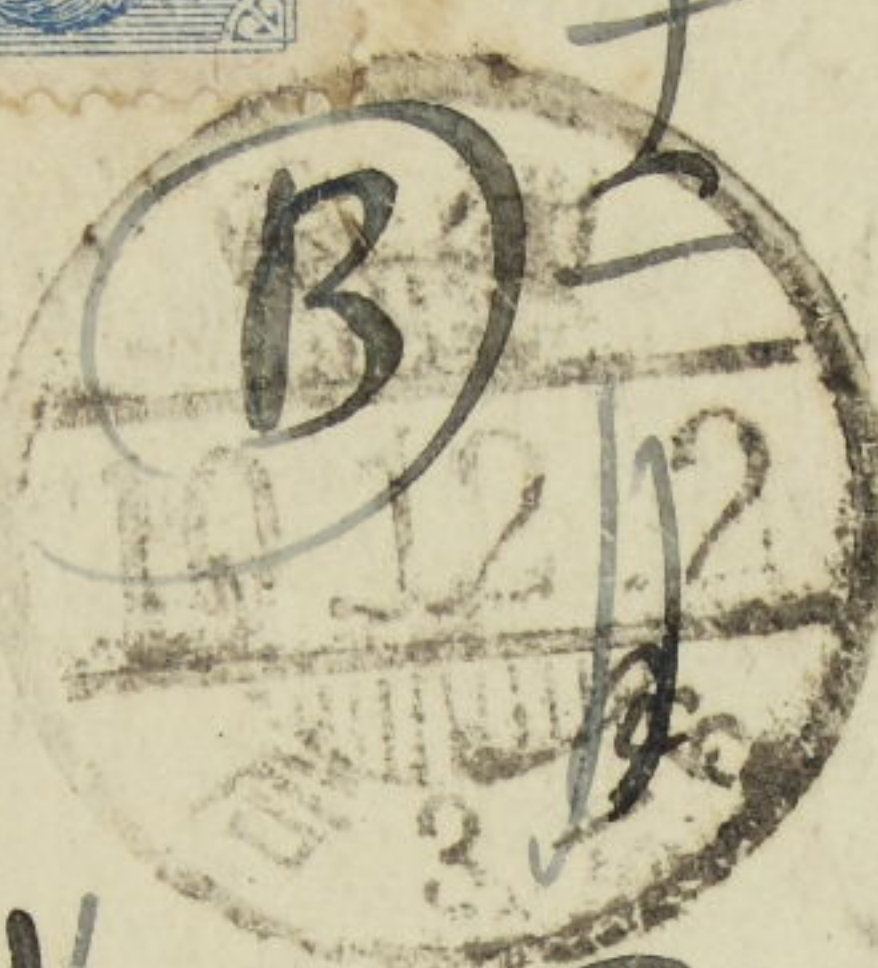
物什院倉正良奈

(寫謹筆用藤工)





郵便はかき



東京市牛込
区新所
中島謙士
様

POST CARD

い、加減よほまを吹
き、たははとこにせら
る自由自在に嘘をつき
る身ものもよくあきらか
く何と眼んでもはいつ
明家もの通と見て
くたたま、に見せてよく
ゆかにて、ちり子物、味
あ、事にて、い、も、此、味
は、た、の、あ、く、天下に無名
の、浪人にあ、ち、は、後、後
か、た、さ、と、ころに、あ、の、り、





あは横着自は我流と専門
 と所() するは子() 一() 一() 一()
 省目() して()
 若() 其() の
 玉() 子() に()
 い() 其() 子() に()
 厚() 其() 際()
 には() 玉() に()
 専門() を()
 問() 人()
 あ() る() 時() は()
 大() 市() 臘()
 文() 子() 丸()
 と() あ() る()
 と() 子()
 と() 子()
 事() と() 所()
 子() と() 田() 全() 一() 子()



2(26)

田() 全() 人() を()
 あ() る() 子() に()
 大() 市() 臘() の()
 何() の() 子() は()
 子() も() 人() に()
 わ() る() も()
 い() ち() 子()
 比() ば() 同() 比()
 地() 子()
 問() 人() の() 子()
 女() に()
 出() 山() 子()
 ち() せ() に()





郵便はかき

中島謙生

村

多田新町

東三子市牛込

POST CARD

新

46
3960
2
(27)

此の紙がすいて
 来、には、何等の
 喜味あき、又無さか
 如く、聊か、控さ、あた、く、有、か
 に、つ、け、る、際、を、と、り、
 十二月三日
 本日はまた、御見
 物、は、あ、ま、の、お、も、ち
 リ、ら、い、な、竹田町附近
 と、い、ふ、が、
 だ、い、な、書、き、な、と、ら
 あ、ま、の、あ、ま、の、ち、に、あ、て、困
 る、は、い、な、あ、ま、の、あ、ま、の、



今朝書中にて一首と得
 書中に記すところなるは
 多く作するところなるは
 は歸するがうらみよの
 身心の
 少少疲れたる所の
 所を
 有

い
 今
 曉
 の
 ば
 も
 の



を
 ち
 こ
 ち
 の
 嶋
 の
 波
 の
 ち
 の
 も
 ろ
 神
 に
 の
 歌
 よ
 せ
 ぬ
 あり
 つ
 ま
 ら
 浪

と
 り
 の
 に
 の
 日
 こ
 の
 文
 の
 は
 起
 ら
 ず
 後
 推
 致
 と
 加
 へ
 る
 事
 一
 つ
 の
 も
 改
 め
 る

(寫謹華清藤工)

物御院倉正良奈





郵便はかき

市馬山

東二子

市牛

十二月
三日
夕

あ

POST CARD

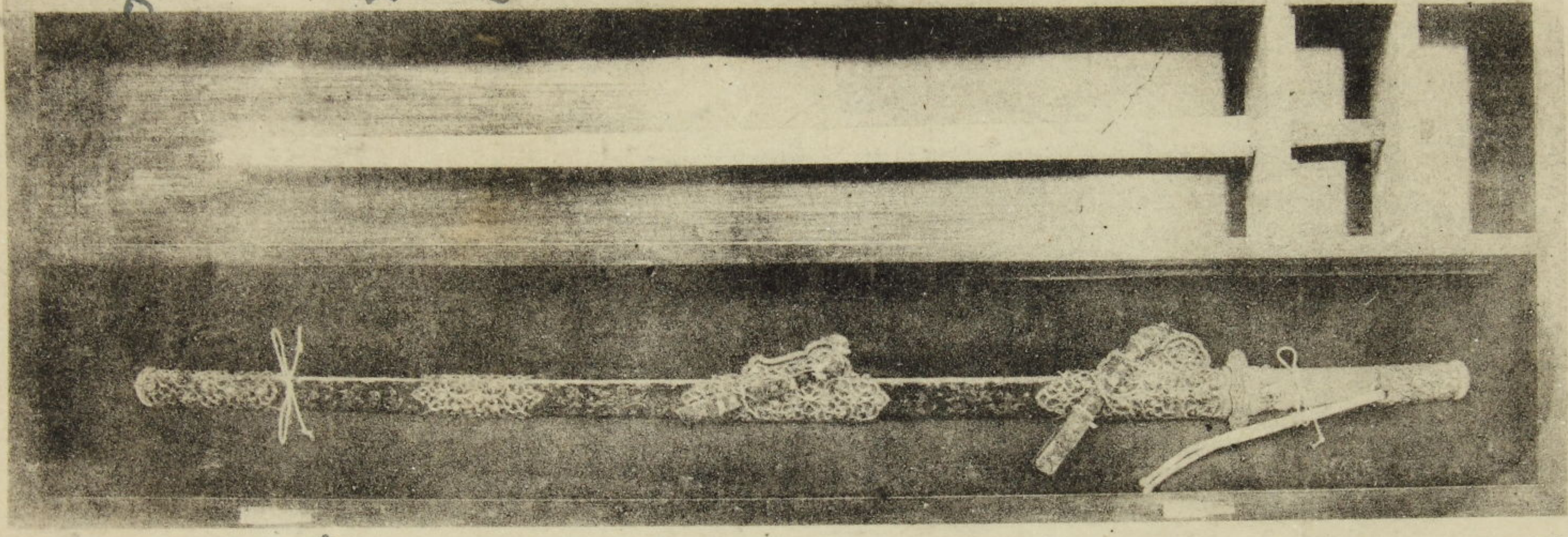
石造の祠ありて
 謂岩楯現ありて
 その何楯現ありて
 問も起りしが
 なるは
 かと
 小学探に
 由る
 了講
 大

46
 3960
 2
 (28)



口ノ廿百尾打大ニ遠海ノ字宇對御
ウタイゼ」ところの石佛を思ひ

大から
竹田方面
に向ふ
は海道
の廿百尾
御よりニ
十折も一
の旨いさか
路籍平か
すなはち他
は探訪に
は多分
は用難と
下と
左より手
御より
と阿の
十一面觀
者なる其右に多聞天



一観を刻
したり
あくまの關
夫の女は
一殿格の
供より海
法的一天に
湯の形
も高き
道にてあ
五尊佛と
いふも
たる既に面
白の
君像の右
方に十
階にて

長正倉院什物

(寫謹華精藤工)





郵便はかき

POST CARD

初

十二月三十一日
牛田街道
自徳車上

市島護士
村

東京市牛込区
牛込新町

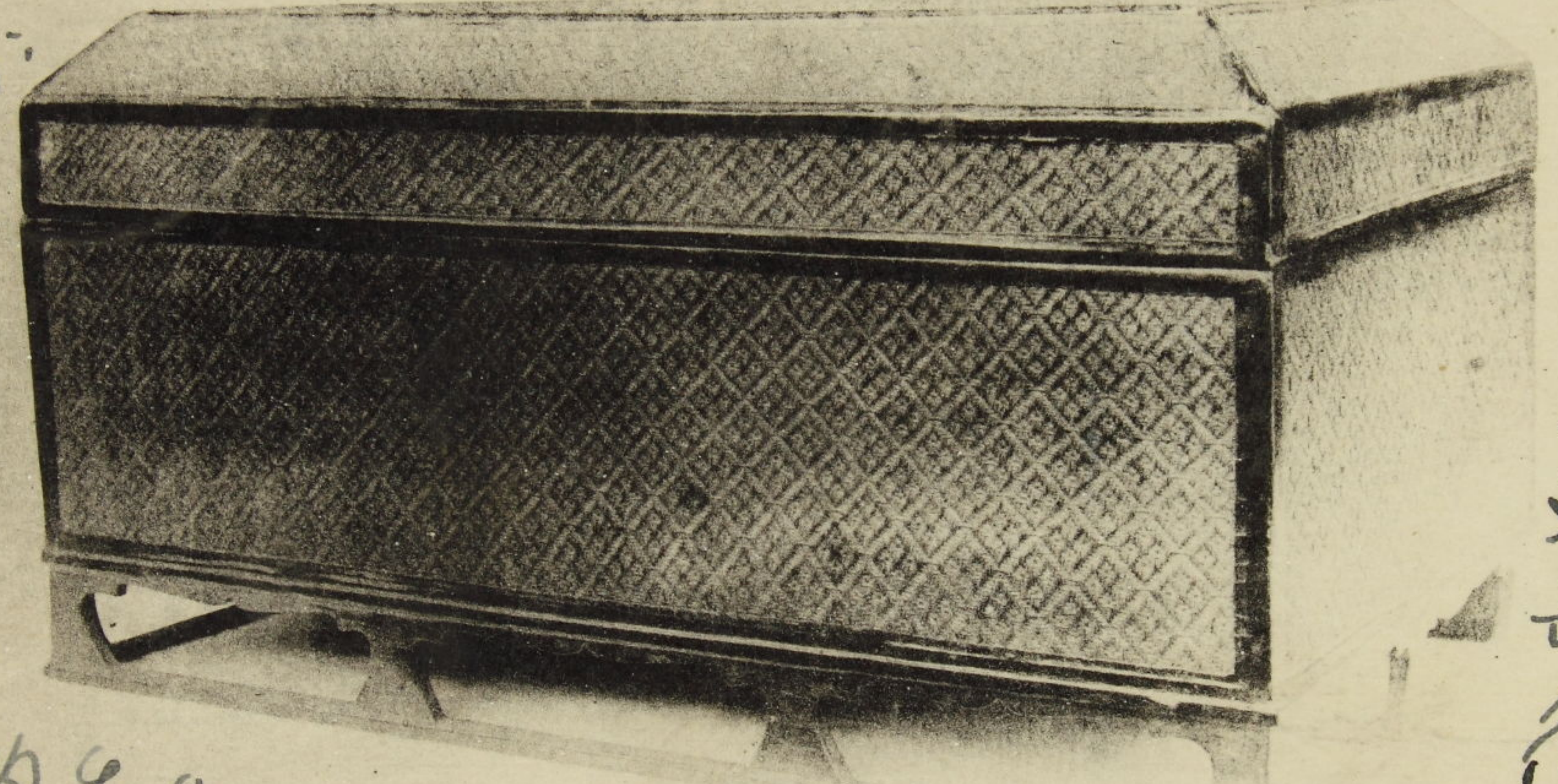
いづて竹田題跋を
得た。たゞりし
が夕はかえりも
出身の地に入ら
少くも、そのと
い、明朝得が
を討つてく

妻向の世田
り

46
3960
2
(29)



五魁よりに方さ一丈前後
 の手衣箱
 の上野の
 に修た
 るところ
 あり
 同作と
 あり
 自傷
 上車
 上車
 如く
 骨に後



九州の
 探訪
 も
 は
 今
 物
 倉
 正
 良
 奈
 大
 大
 田
 奈
 物
 の
 見
 今
 も
 の
 感
 の
 後
 初
 の
 目
 今
 も
 大
 大
 田
 奈
 物
 の
 見
 今
 も

(寫謹華精漆工)





きかは便郵

たのふらふ市牛込
ちのふ新町

市具書
封

十日

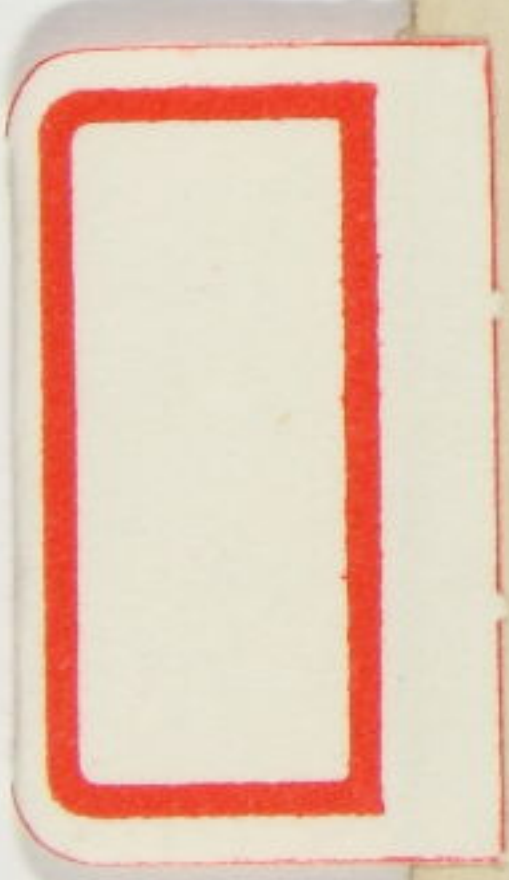
(上)



UNIVERSELLE POSTALE

そのが如く、
絶崖の壁に、
石佛の影、
大なる地獄谷の、
山頂も、
一たる、
好地、
満ち、
後世、
ふ、
の、
南無、
其、



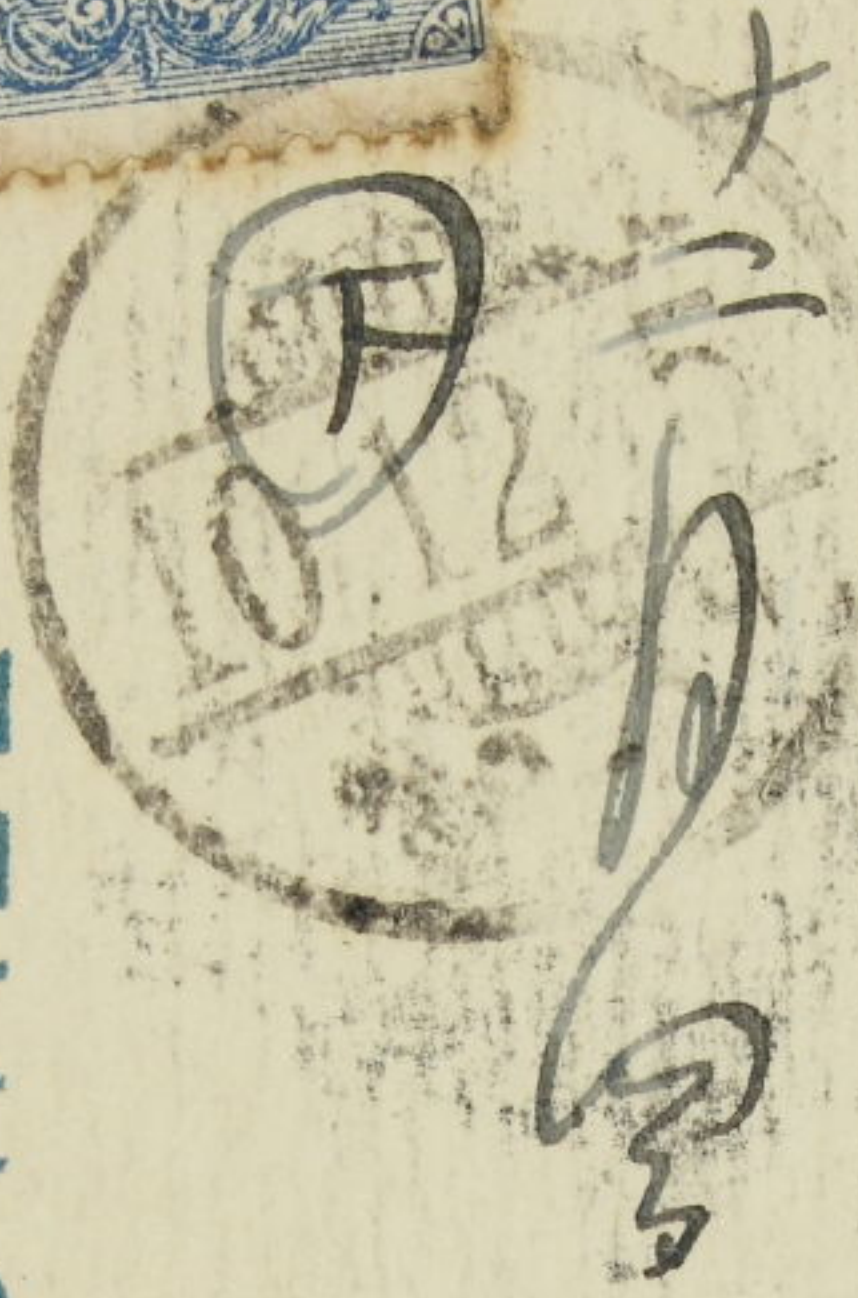


郵便

UNION POSTALE UNIVERSELLE.
CARTE POSTALE



郵便はかき



東ニ子カ市又
カヨ新町
市島海士
カ

真似にはまかす(あまの)
昨は白紙からあへる
信は右に引く所は竹田
ア、に、あ、た、か、に
こ、ゆ、ま、の、び、く、あ、し、ん
竹田のの昔をよむと
あ、ま、の、内、人、と、時、尚、の
無、さ、あ、の、あ、ま、の、あ、ま、の
往、訪、の、あ、ま、の、あ、ま、の
つ、く、あ、ま、の、あ、ま、の、あ、ま、の
あ、ま、の、あ、ま、の、あ、ま、の、あ、ま、の





きかは便郵



POST CARD

初

十二
月
五
日
初

石島謙
叔

東京市
牛久保

あゝいふも其所に在る
觀世たるもの鐘音に宛
しきし昔はははははの
生の身のよちりて
回憶をいさかきと
罪ありて配所の月
をば寧ろ面白とする
いと徒然なるもの兼好は
中におきかゝるは
その趣味をいさかきと
其言ふははははははは
あゝいふも其所に在る
九州に來るもつまた





46
3960
2
(37)

大に謙愧のまに何事か一月給のほは有行
の御代御用は大にすくし氣味善の
改今真正倉降御物如何にか(丁藤村筆)て腎脈



すも病も残り睡眠も比較的濃かにある
こちみよは死慮の賜と不堪者解任別府
のよ悔もすこいに二週向以上におもふたあ



郵便はかき

市島謙吉

東京市牛込
区西新井

POST CARD

着

(F)

十二日

又

46
3960
2
(38)

此のよき子種のやうな
 海苔のらへんこと
 ヴィナス、アプロピテ、ア
 ヌタレテの福財は
 る数の鳩と飼育
 するの鳩の好む
 我の園の神社の
 鳩と比較
 して、空に
 飛ぶ、は、
 空に、は、
 空に、は、



後便に之より上はそれより
は内たのしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき

さて

又

西は躰

美みく

物の

行は

はヴィ

ナス

ドラ

起

ヴィナス

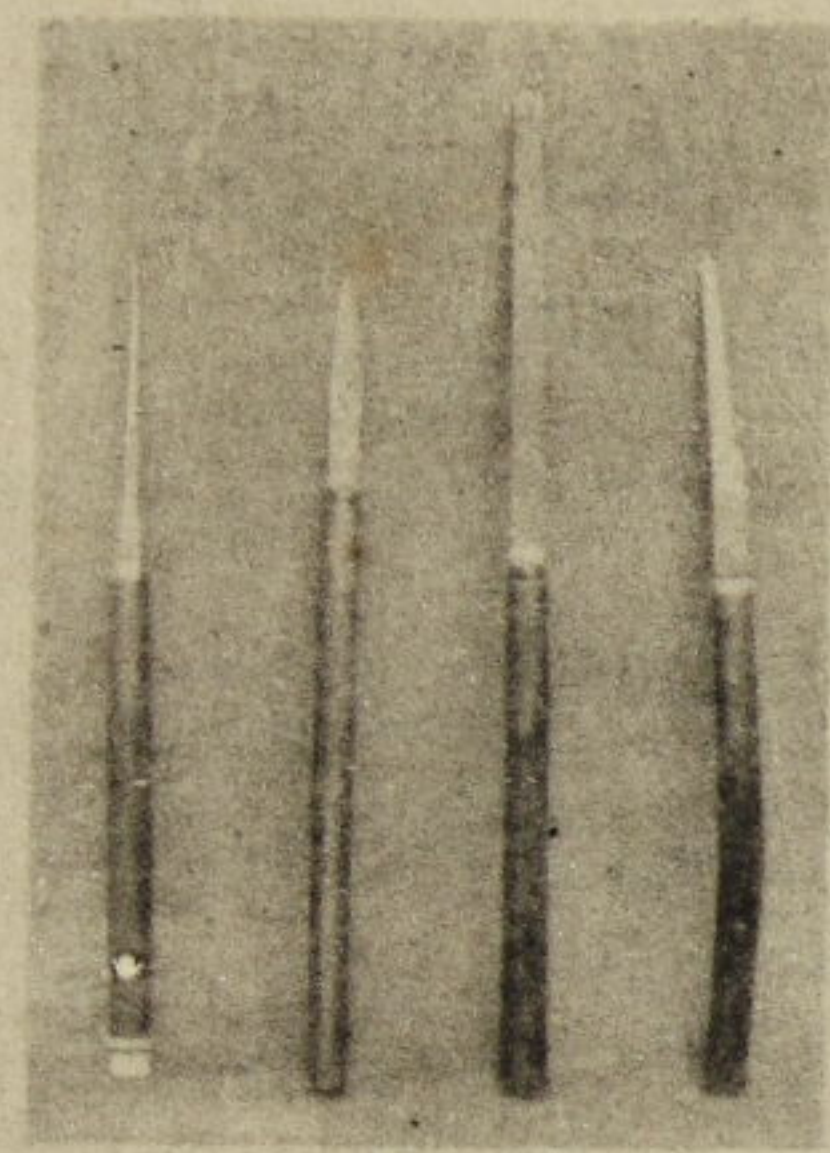
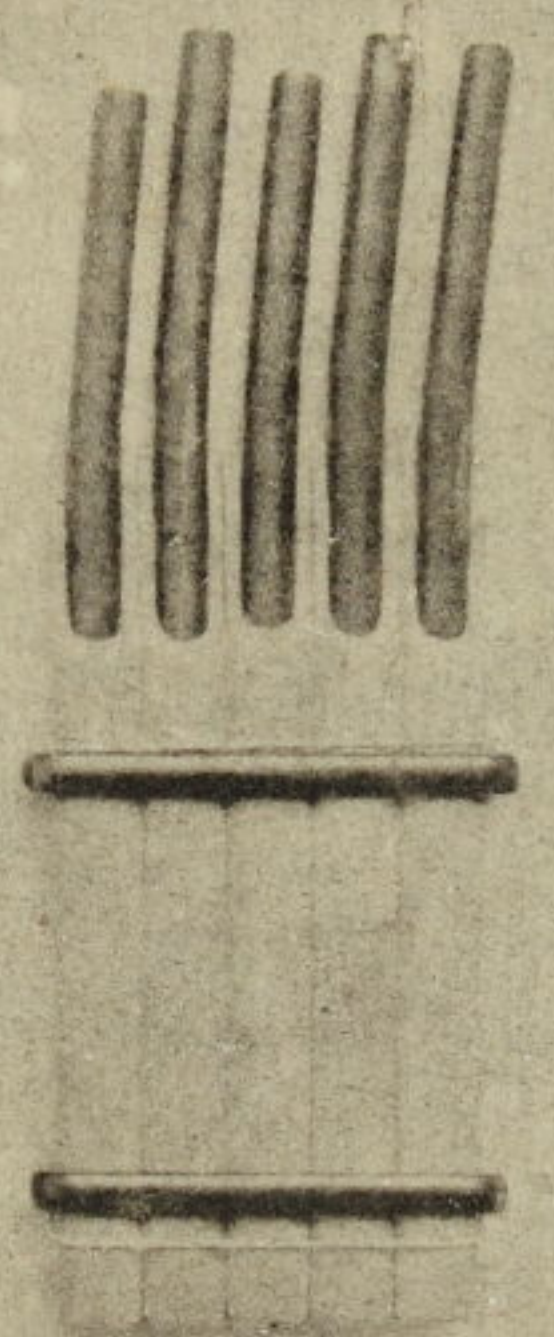
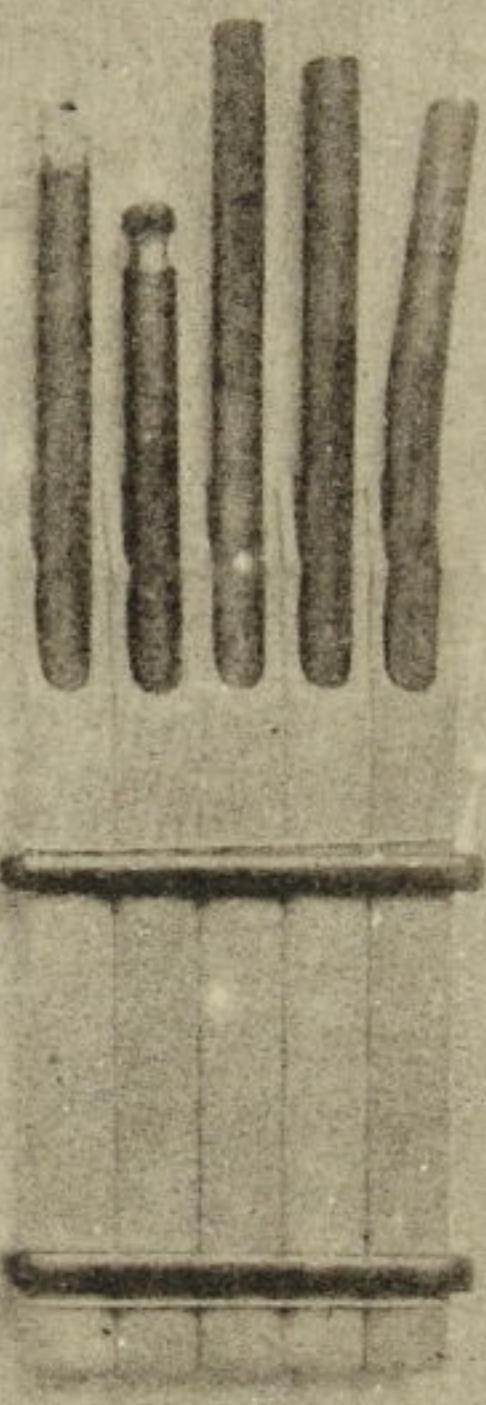
字のあ

は

アフロダテ

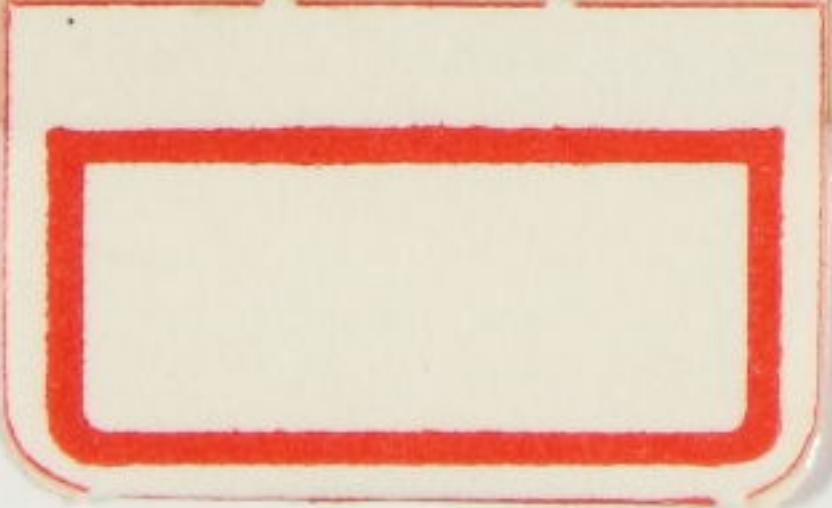
アシュタレテ

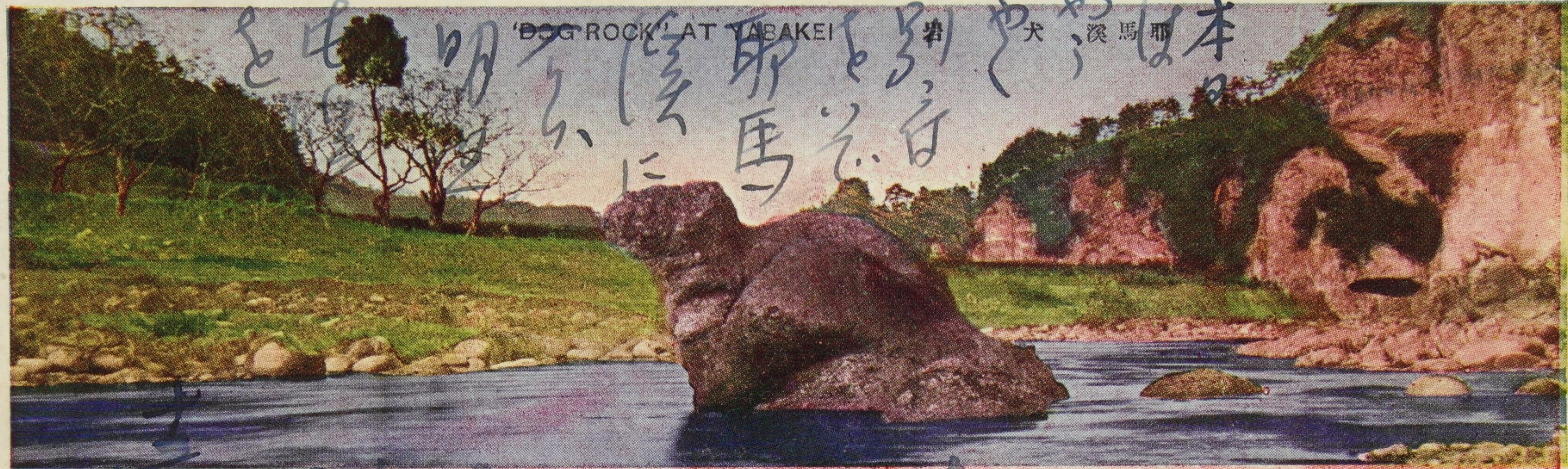
信仰とよび



物什院倉正良奈

(寫謹筆精藤工)





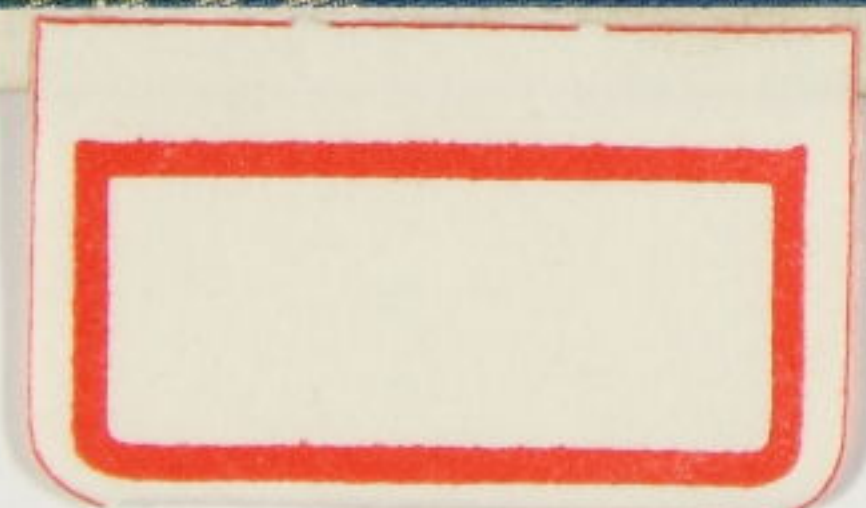
'DOG ROCK' AT YABAKEI

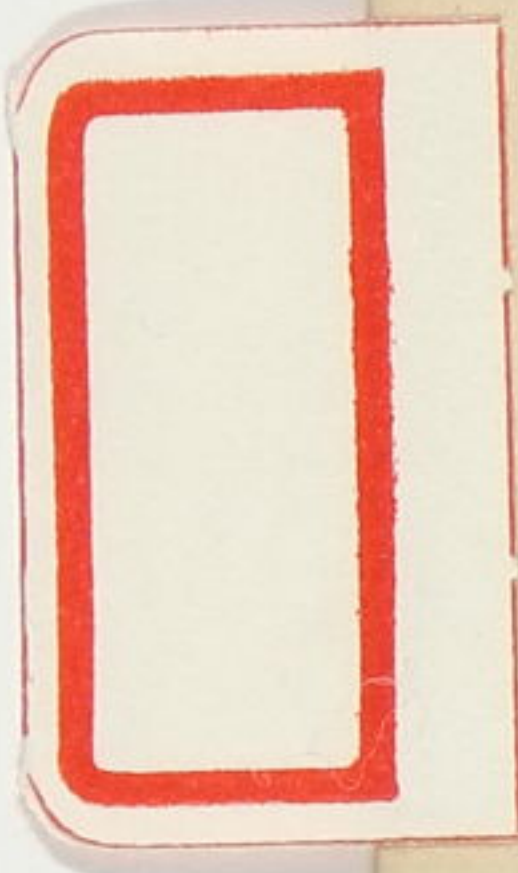
日本 馬 溪 犬 岩 耶 馬 耶 明 中 石



HACHIO ROCK AT AOMURA YABAKEI 岩翁八村青 溪馬耶

中 馬 溪 青 村 八 翁 岩 耶 馬 耶 出 世 石





谷二のきし
 "あけあけ
 ばらのうしろの
 たま〜あめく
 くれあ〜あめく
 であら
 尾の杉の
 ほ〜節の
 ぬり持ちて
 ちひらのうしろに
 ながあ、や〜あめく

(箱旅やとぶか) 碑念記遊會陽山坂柿 溪馬那





46
3960
2
(42)

申上り申下り(又)

おのり

市島謙吉
おみ

郵便はかき



POST CARD

郵便物

後者にはてとてい
山宮のちも山陽今を
とていよとてい
たにる山陽也共田也
一世に起ちたるは
味のそとてい
とていよ今世に
有は南画の白大長を
墨まきとてい
は今人の即馬の
は

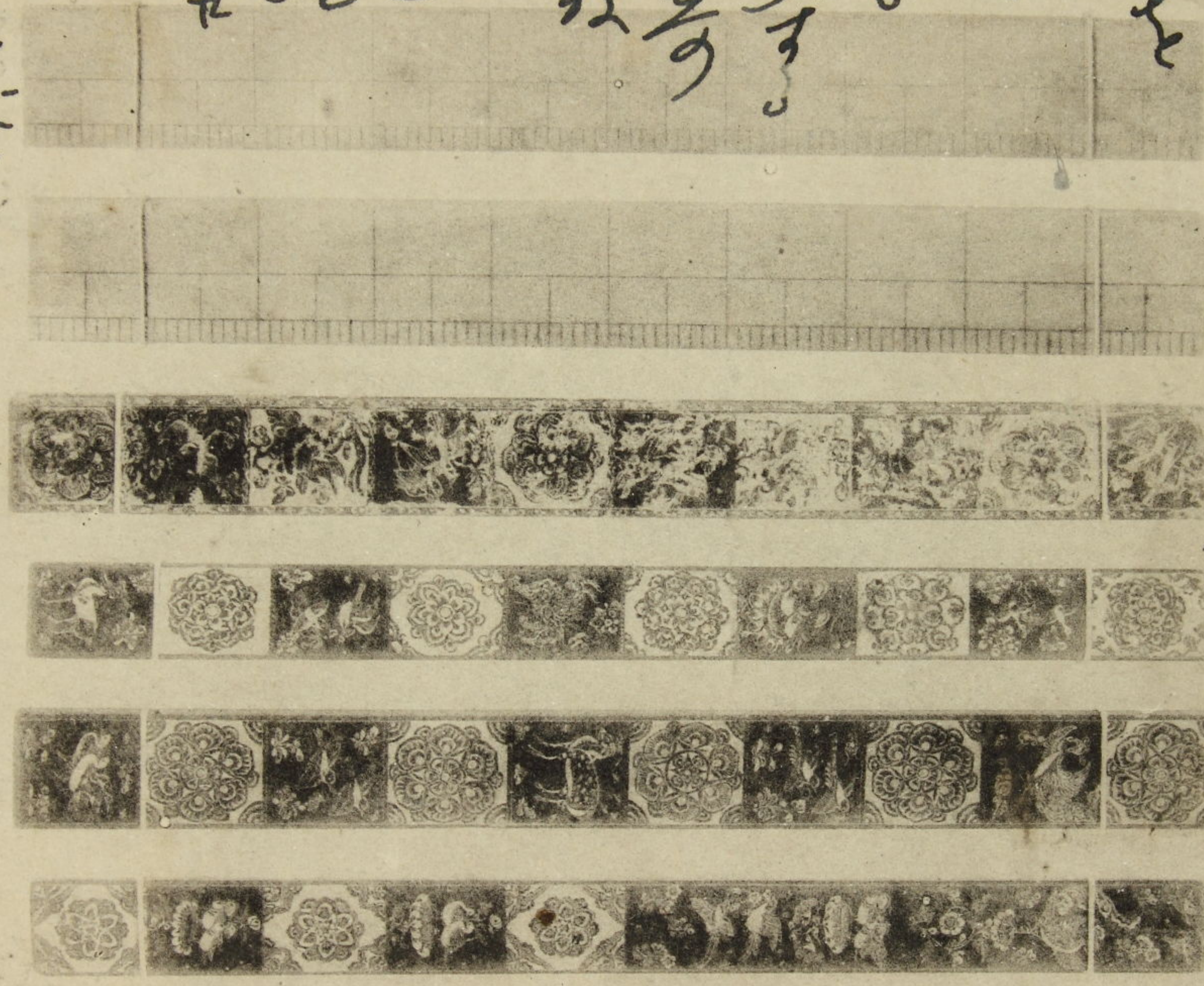
耶馬後に在ると二日晴雨雨
物の面目も、かみ得て多日

大を
夫の幸存にナレハ人は厚耶馬後の

もけ説
要す

に在り

画は巻終連の夢



好を成す日あは耶馬後にあり
有し、こと雨中、雲のち
平らに生趣躍動し、来るはこれ

物御院倉正良奈

(寫謹華帶藤工)



よき御とあるは御にこそと取馬は

と書きたる

時引に

更には

境也と

山の美女

論上に

折開

平

つりや

海よ

と

有んをせよとまた

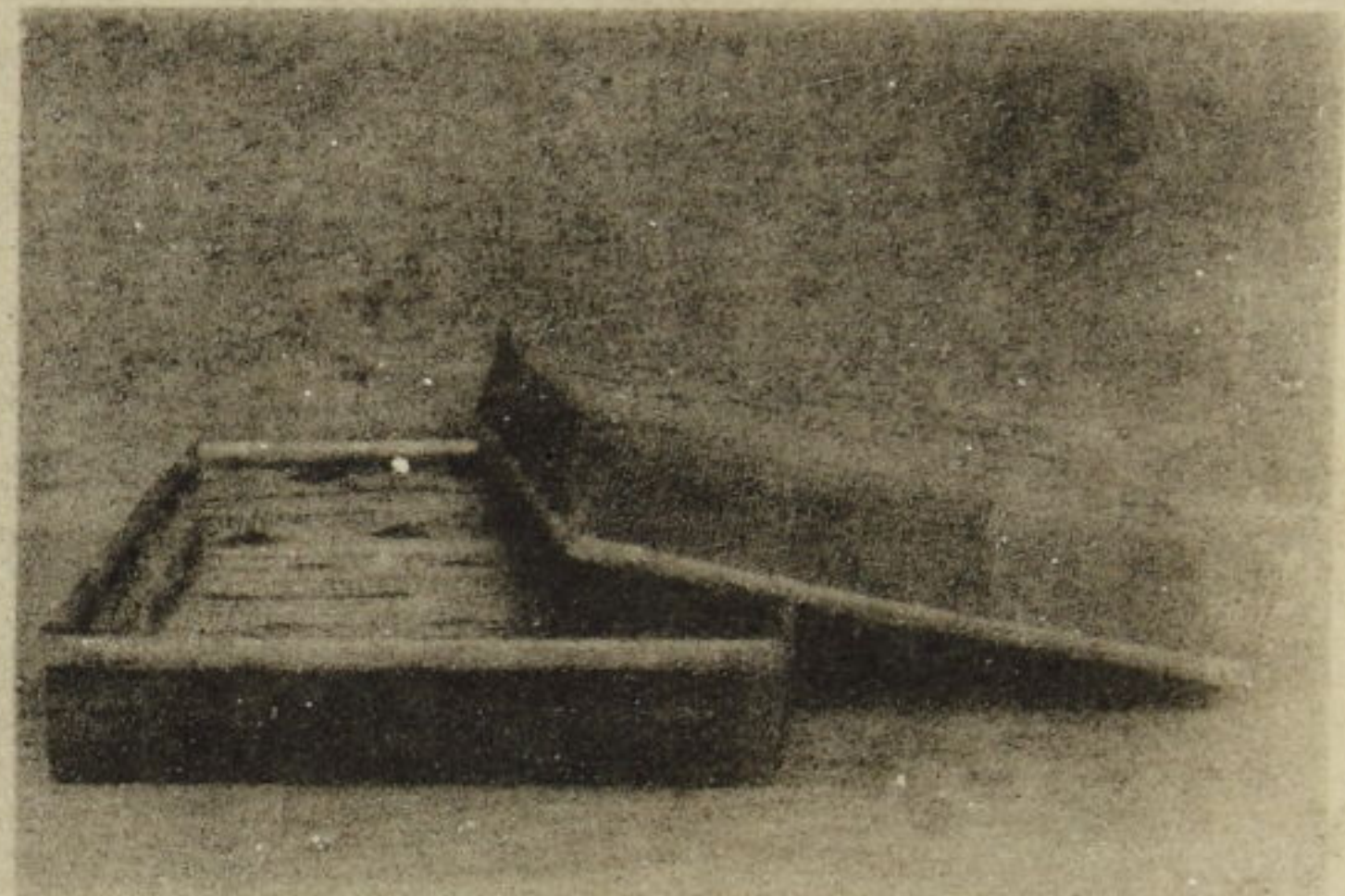
柿段の

空の御

空に俗

空ありぬと

携へて来たは



喧騒

る世

宝

山陽

山陽に

山陽

山陽

山陽

山陽

山陽

山陽

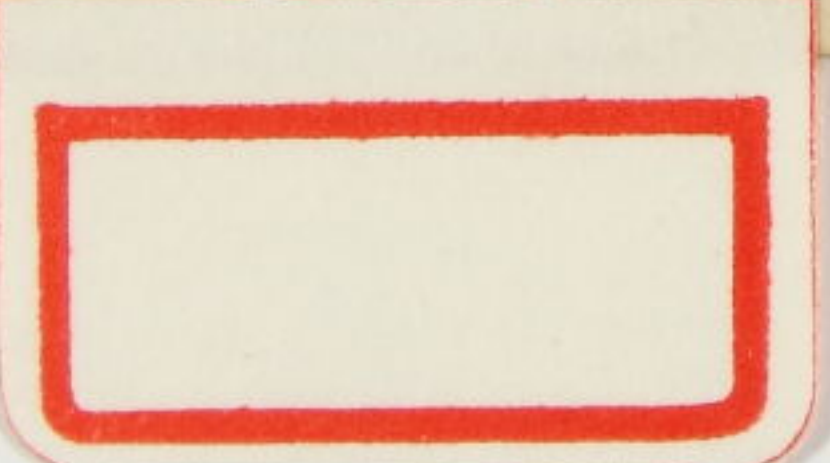
山陽

山陽

山陽

(寫謹華南蓬工)

物什院倉正良奈





きかは便郵

東二馬市牛込
東五軒所

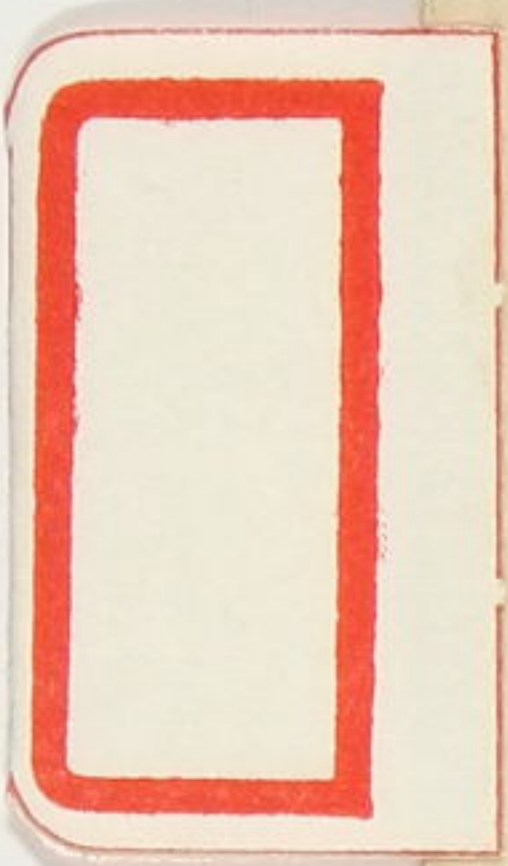
市嶋謙吉先生宛

子守

A

UNION POSTALE UNIVERSELLE.
CARTE POSTALE

遺言にゆきすみやうん
 此種は銘文あけりも唐紙
 の文様は焼りし一ありよく
 勁 金形は朝録式にて所
 謂手頃の二葉をすこもの
 寺僧は招本の法を
 知る 書をとして講釈
 なるが 能せざるもの
 東北に一社あり 信に問は
 ず 守山王ありといふ
 才更に問ふ 五がより一の



76
3960
2
(44)

大守平存にまると、飲世寺と戒壇とと高存楼址

と天陽の石と

大守平存



講經がたぬにほろあふらか、鏡と樓に上りて
以、東の梵鐘とつけ日千年の
の印相と

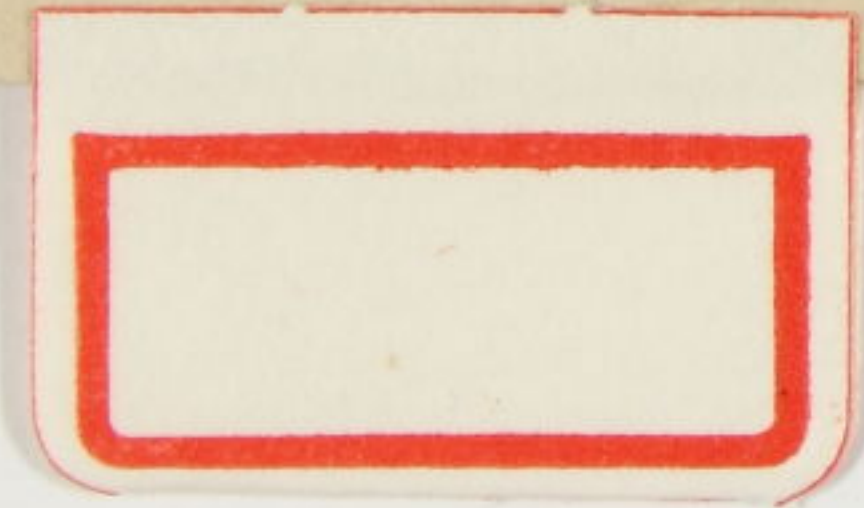
飲世寺の傍に門を
寺の傍に門を
日く書きたる
彫刻師
あつやと
瓦古樓府部前築
寺の傍に門を
て諸佛
の印相と



後守ありしや作るる在彼所(寺の
 東南の小山に於の密生ありといふ
 も指しつゝにありし如し
 本染の禱
 守とのりあり
 今日は荒
 祭し
 祠もなせ
 本
 少
 問何神
 ぞ彼を
 祇園ありと
 あり
 是に於て
 あり
 期待せし
 ともなせし
 よるにび
 狩り得る
 の徳ありと



（二共） 瓦古樓府部 前筑

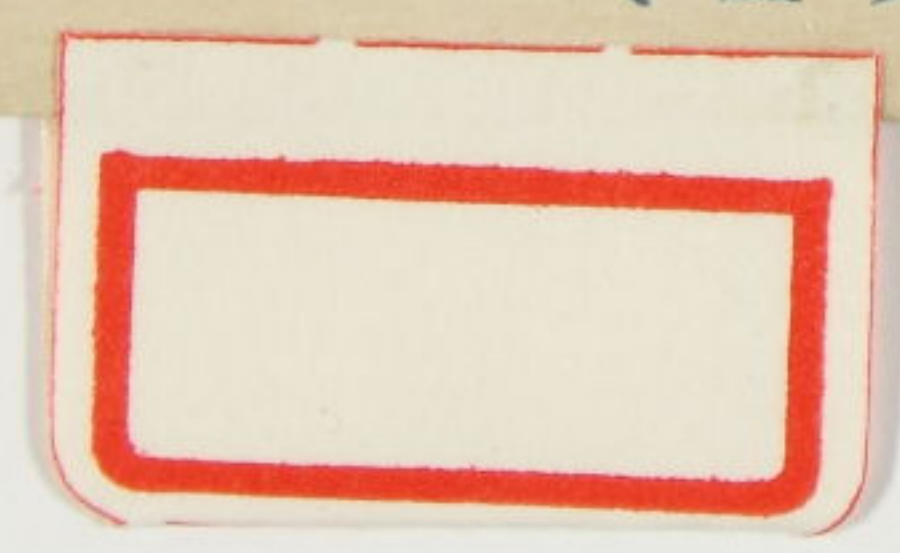


さ、すに古石伊探訪の際にも
 玩具論中より上たるところら
 昔は昔の人といふ昔の人といふ
 割合にわしいといふ人も
 づくやまは天満宮の
 建を以て前此地より入る
 司祀
 大に
 信る
 仰を
 関明

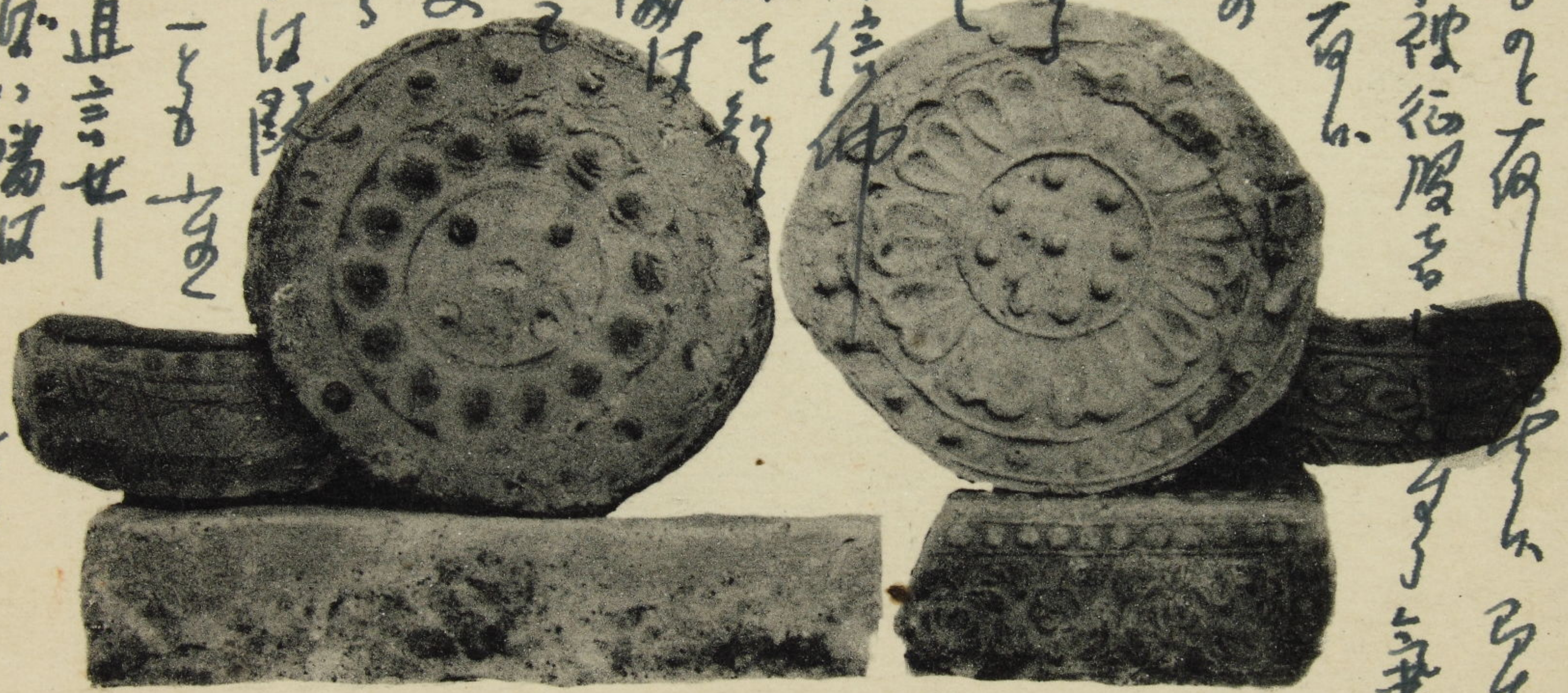


といふ一は天満宮(建)
 其以後の文獻の有無
 の如きは強て関係無
 一は一昨は耶馬に人カ車
 上りて途に一山初
 問一は車夫は此地方の漁守ある

(三其) 瓦古樓府都 前筑



子は佛の神に代りし信仰上の象徴
 をもつたものとありしを
 服の古の被征服者の
 の形式とありし
 其形式の
 背後を
 透龍す
 の神あり
 多岐的信仰
 の云々を
 ぶらハ幡は
 底神夫あり
 手とよ
 どの然る
 海は
 直言せし
 神の
 信に
 玉り



(五其) 瓦古樓所部 前瓦

46
 3960
 2
 (47)



永朝御法に
お十箇所あり
而之

九州の山中に
牟禮とて

その木漆佛
もわりの名に

の名佛
の名佛

浄月寺

浄月寺

浄月寺

浄月寺

浄月寺

浄月寺

浄月寺

浄月寺

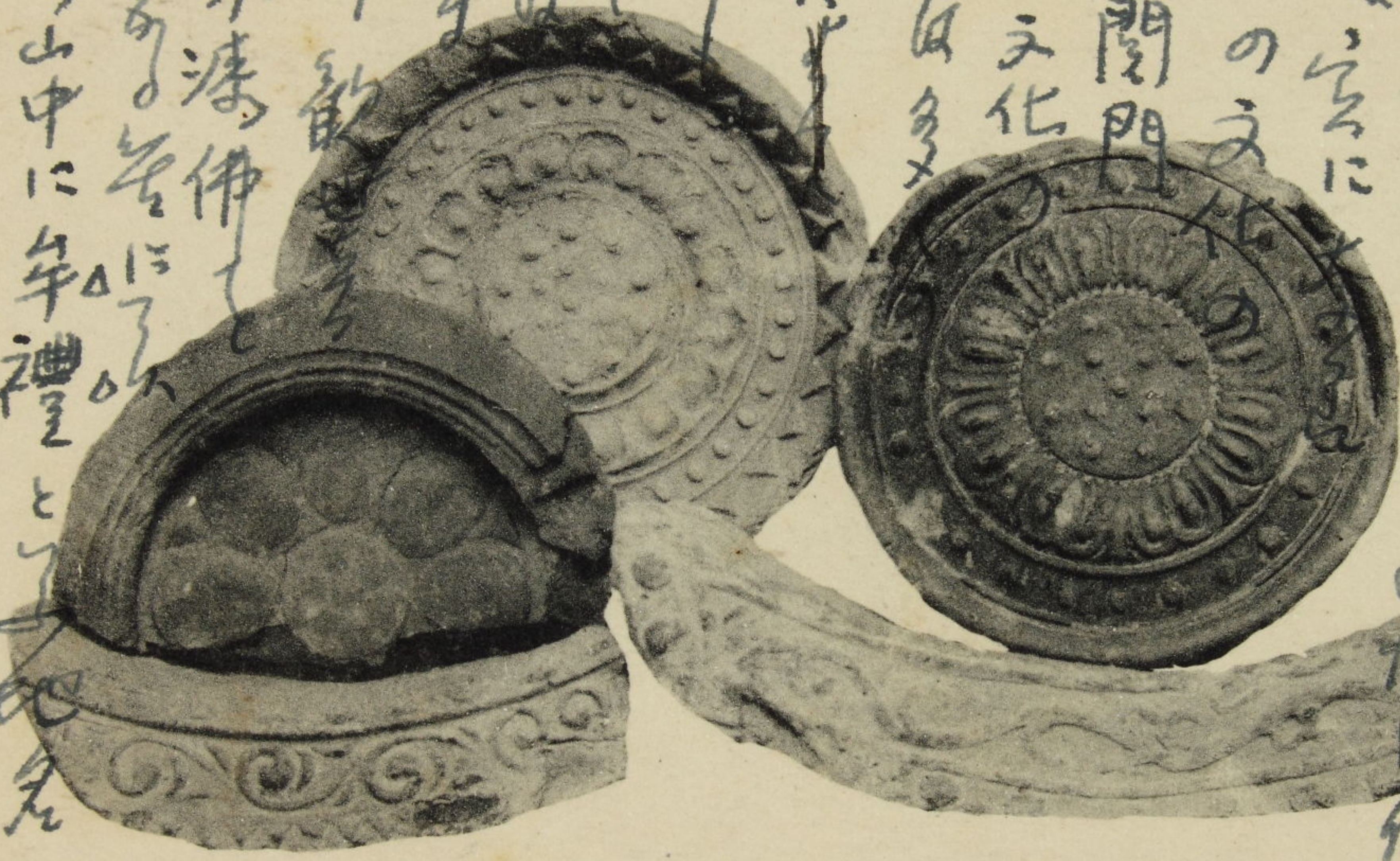
浄月寺

九州は、そのに
あまの命の文化
輪丁の閉門
あまの文化
傳揚は多
あまの文化

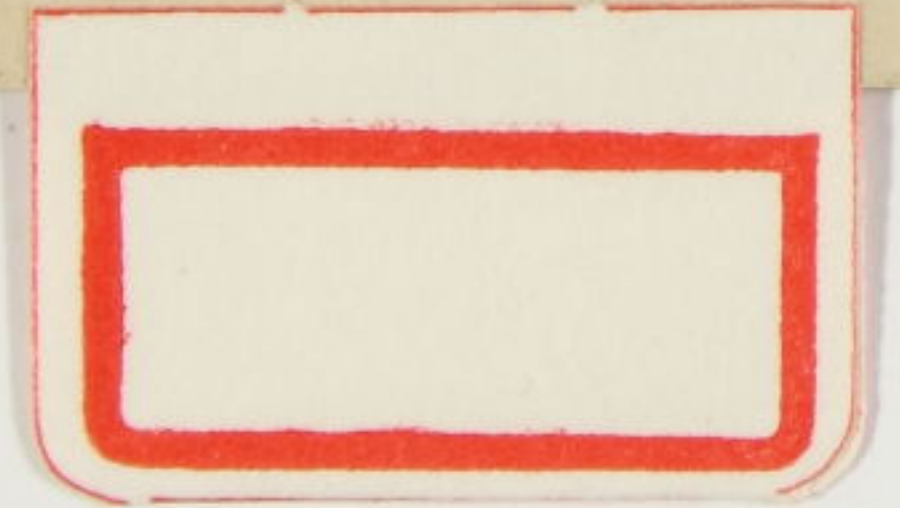
九州は、そのに
あまの命の文化
輪丁の閉門
あまの文化
傳揚は多
あまの文化

九州は、そのに
あまの命の文化
輪丁の閉門
あまの文化
傳揚は多
あまの文化

九州は、そのに
あまの命の文化
輪丁の閉門
あまの文化
傳揚は多
あまの文化



(四其) 瓦古樓府都 前筑



46
3960
2
(48)

郵便かはき

E

↓
直ちに寺子屋の之
祖とせしむるも子供に關係
ありし神祠と解すや
直に正解を行く子
供の達者に言つたに
ひきつけられたる神祠と
解すに甚くかたがは
のる神祠は地方人の
夙に要おせしむるに
其の地にありしを
公がたのむるに
おのりたるわけを
UNION POSTALE
UNIVERSSELLE
CARTES POSTALES
神祠

佛教徒も前後天平前後
に於て既に在りし地方的文
化を有し外國影響の
直接ありし地方に於ては
世にありし流すや一層
て神祠と云ふもの流すや
寺子屋はまたこれら
と行ふ。部會人の已物の
謬見と有りしを
いふは法のありしもの
をたのむるに
神祠に
早國



トトビツキのとき、
天満宮 時 鳩笛の

代りに鳥笛を奏するも何時終るおらあるにや

(玩具として天神にふるはれを別に記す) (石の

牛につくもはるるを得ず) (飛梅を壇に詰りて

土をふるもをふるに其の作並配をも龜井戸の卯植に

は似たり) (天神の神徳に御すも興鳥換の神事か盛大なる

きか戒壇には觀世を寺の西にあたり海梅の像を臨む大

師の像を寺の東にありて其の像を臨む大

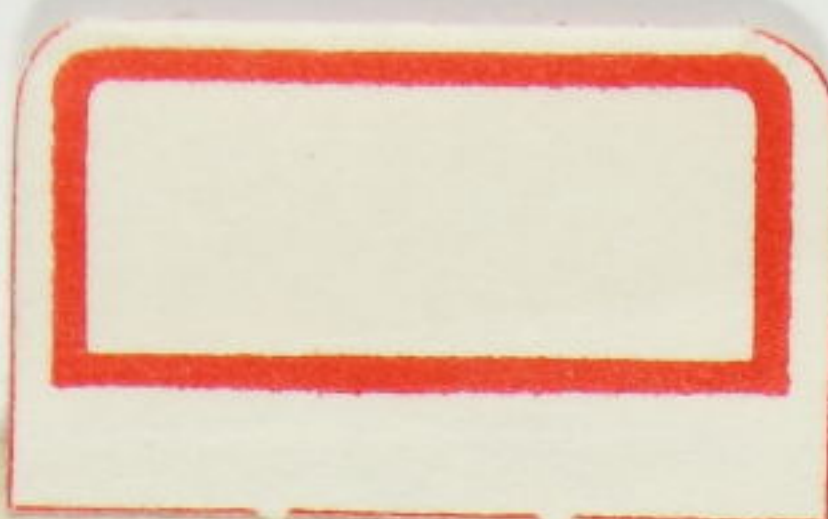
移すに日羅リヤク 臨むを寺の東にありて其の像を臨む大

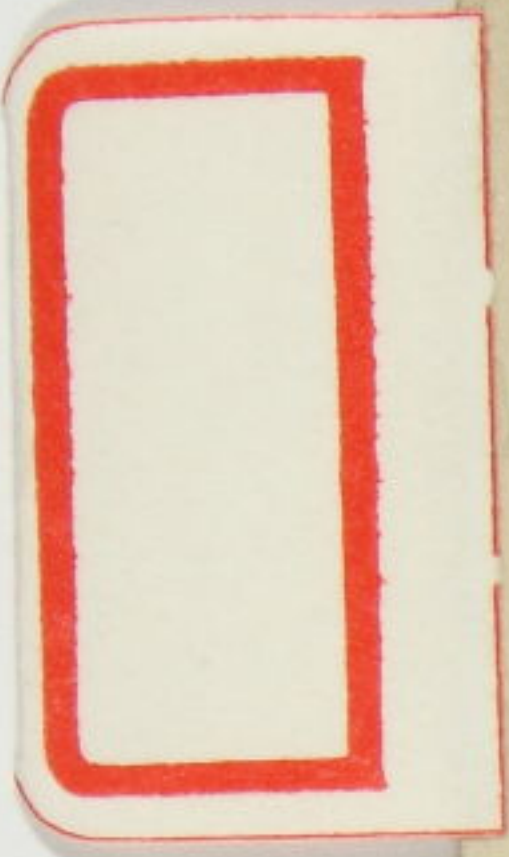
彬たる文化の地 ~~あり~~ ありて其の像を臨む大

みよふふことに觀世を寺に於ける十數の軀の



F





Union Postale Universelle
 万国郵便連合会
 此の後に送るに
 此の宛先は
 此の宛先は
 此の宛先は

郵便便
 南のり、まゝあるべく有らば、一あるに、鐵道のまぢ
 ありて、いさとの、荷物行衛不明とあり、振込道
 目子書物も、みお、其中にあるとて、大に、運送の
 九州南部を、一週して、日向に
 船に、大坂にも、とり、一平、い
 此の後に、送るに、四國又は、お伊の、島、地
 此の宛先は、此の宛先は、此の宛先は



76
3960
2
(50)



筑紫戒壇院開山眞大師の像

